５２０Z
組立分解説明書

F.planning

はじめに

この度は弊社製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本製品は大型（1/5）本格的ラジオコントロール自動車模型(以下、R/C カー)です。この説明書は、本製品の組立方法を図解で説明しています。お客様のメンテナンスにお役立て下さい。
尚、本製品は燃料に混合ガソリンを使用し高速で走行致しますので、R/C 専用サーキットでの走行をお願い申し上げます。

組み立てる前に必ずお読み下さい。

・お買い求めの際、また組み立てる前に必ず内容の確認をして下さい。万一、不足部品等がございましたら、お買い求めの販売店にご相談下さい。
・セッティング前に必ず本書をお読み下さい。なお先にひととおり目を通しておくことにより、全体の流れがわかり易くなります。
・小さなお子様のいる場所での組み立てはおやめ下さい。小さな部品やとがった部品、またビニール袋などで不慮の事故を招く危険があります。
・組み立てる時は、周囲に注意して下さい。また、とがった工具や固い工具はケガの原因になりますので、取り扱いには十分注意して下さい。
・固い物を工具で切らないで下さい。切断した破片や、折れた刃が目に入る可能性があり危険です。
・塗料や接着剤などの化学製品を取り扱う時は必ず換気して下さい。また、小さなお子様の手の届かないところに保管して下さい。
・引火性の強い化学製品を取り扱う場合には、火の気のない所でご使用下さい。
・未成年の方やR/C カーの経験が少ない方は、保護者またはR/C カーに詳しい方に手伝いをお願いして下さい。
・類似した部品がいくつかございますので、図をよく見て確実に組み立てて下さい。
・本製品および各部品は、お子様やペットの手の届く場所、および高い場所には保管しないで下さい。
・樹脂パーツにネジロック剤を使用しないで下さい。破損の原因になります。



目次

表示の意味

本書の中で次の表示がある部分は、安全上で特に注意する必要のある内容を示しています。

表示	意味
⃠	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が死亡または重傷を負う可能性が考慮される場合。もしくは物的損害が発生する可能性が高い場合。
⚠	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が重傷を負う可能性は少ないが、傷害を負う危険が考慮される場合。ならびに物的損害のみの発生が想定される場合。

本書の中で次の表示は、説明している内容の違いを示しています。
本書を読み解くための参考にしていただければ幸いです。

表示	意味
★	技術的な説明および調整方法について説明しています。
☆	組み立て工程のみを説明しています。

走行前の点検

走行前には、エンジンとプロポの取扱説明書を必ずお読み下さい。

⦸ すべてのネジ／ナットの増し締めをして下さい。走行中本製品が分解すると大変危険です。

⦸ エンジンを始動する前に必ず R/C 装置が正常に作動するかどうか確認して下さい。コントロールが不能になり大変危険です。

　ﾁｪｯｸ１：ステアリングが左右正常に切れますか。
　ﾁｪｯｸ２：ブレーキが正常に動作していますか。
　ﾁｪｯｸ３：受信器のバッテリーの満充電を確認します。
　ﾁｪｯｸ４：送信機に新しい電池が入っていますか？古い場合は新しい物に交換して下さい。

⦸ 燃料パイプの状態を確認します。切れそうなパイプ、詰まったパイプは燃料漏れを起こし思わぬ火災を招く恐れがあり大変危険です。

⚠ 可動部／回転部が軽く動作することを確認して下さい。車体故障の原因となります。

エンジンと燃料の取り扱いについて

⦸ 整備中やアイドリング中にクラッチ、プーリー、ベルト、ブレーキディスクなど回転する部分に指などを入れないで下さい。大変危険です。

⦸ アイドリング中や走行後に、エンジン、マフラー、ブレーキディスク、タイヤは非常に高温になり危険です。しばらくは手を触れないで下さい。やけどの原因になります。

⦸ 混合ガソリンは、誤って吸い込んだり飲んだりすると非常に危険です。取り扱いには十分注意して下さい。また燃料を取り扱う場合には、火気や静電気などにも十分注意して下さい。引火して災害の原因になります。

⦸ R/C カーに燃料を入れたまま持ち運ぶことや放置は絶対におやめ下さい。燃料漏れや気化が進み危険です。走行させる時のみ R/C カーの燃料タンクに燃料を入れて下さい。また、室内など風通しの悪い場所での給油はおやめ下さい。揮発成分を吸い込むと有害です。

⦸ 室内や風通しの悪い場所では、絶対にエンジンを始動させないで下さい。

⦸ R/C カーの燃料タンクに入れた燃料は使い切って下さい。残った燃料を保管用の燃料タンクに戻すと燃料が劣化します。

⦸ ガソリンスタンドで R/C カーへの直接給油は危険なので絶対にしないで下さい。

⦸ エンジンをかけた状態での給油も危険ですので絶対にしないで下さい。

⚠ 規定配合の混合燃料をお使い下さい。規定以外では、エンジンの故障につながります。

⦸ 燃料タンクのキャップは確実に締めて下さい。走行中に引火するなど危険です。

⦸ 燃料は保管用の専用燃料缶で保管して下さい。また、お子様の手の届かない涼しく暗い火気や電気製品のない場所に保管して下さい。

応急処置について

＊ もしも燃料やオイルが目に入ったら、大量の水で十分に洗い流して下さい。
＊ 誤って燃料やオイルを飲み込んでしまったら、速やかに大量の水を飲ませ、吐かせて下さい。
＊ 皮膚についた場合は、石けんなどで十分洗い流して下さい。
＊ 上記は応急処置です。速やかに医師に相談して下さい。

走行上の注意

本製品は引火性の高い燃料(混合ガソリン)を使用しますので、R/C 専用のサーキットでの走行をお願い致します。また、排気音や走行場所など他の人の迷惑にならないよう、また安全にも十分注意して下さい。

⦸ 人混みや小さな子供のそばで走行させないで下さい。
⦸ 火気のあるところで走行させないで下さい。
⦸ 一般道路では絶対に走行させないで下さい。
⦸ 夜間や早朝は走行させないで下さい。
⦸ 狭い場所や、室内では走行させないで下さい。
⦸ エンジン本体、マフラー、燃料タンクなどパーツを改造しないで下さい。
⦸ R/C カーの上に、生き物などを乗せないで下さい。大変危険です。
⦸ 送信機、受信機のどちらの電池が減ってもコントロールを失う可能性があり大変危険です。早めに交換または充電して下さい。
⦸ 同じ周波数で R/C カーを走行させると、電波の混信によりコントロールができなくなり、事故の原因になります。近くで R/C 模型を操作している人がいたら、お互いに周波数番号を確認し合い安全に走行させて下さい。
⦸ 高圧線・通信施設の近くでは、走行させないで下さい。暴走する可能性があり危険です。
⦸ 雨天または水のかかる恐れがある状況では、絶対に走行させないで下さい。R/C 装置の制御が効かなくなる可能性があり大変危険です。
⦸ 疲れているまたは体に異常があるとき、薬やお酒を飲んだとき、病気や妊娠しているときは、走行させないで下さい。
⦸ この説明書の内容を理解できない方が走行させますと大変危険です。走行させないで下さい。

受信器用充電電池取り扱い上の注意

⚠ 弊社 R/C カーには必ず専用のバッテリーをご使用下さい。
⚠ バッテリーの充電には専用の充電器をご使用下さい。
⦸ 充電電池には落下させるなどの強い衝撃を与えないで下さい。壊れて電解液が漏れると、やけどや化学物質の被害を受けます。
⦸ 充電電池のコネクタ間をショートさせないで下さい。やけどや火災の原因になります。
⦸ 充電電池の分解・改造は絶対におやめ下さい。
⦸ バッテリーの充電は、メカボックスから取り外して、安全な場所で行って下さい。

車体の破損などについて

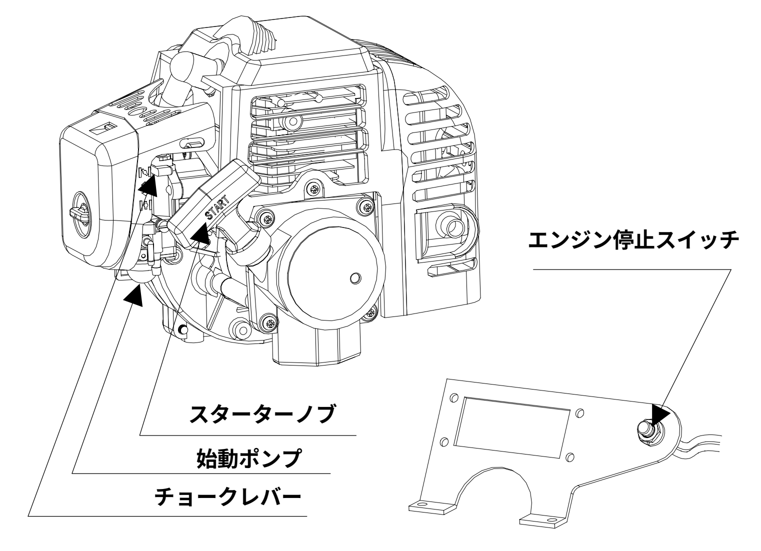
本製品は、１０kg以上の車重で時速１００㎞にも達する性能を備えています。衝突時は見た目よりも遙かに大きな力が加わっておりますので、走行には十分注意して下さい。
弊社車体は衝突破損に対して壊れる順序をあらかじめ想定し設計してあります。

① サスアーム、ロッドエンドのφ１０ボールが抜ける。
② ナイロン製サスアーム、ロッドエンドが破損する。
③ アルミナックルアーム、アルミタイロッドなどが曲がる。
④ ホイール、ホイールリング、タイヤが歪む、または破損する。
⑤ サスシャフト、サスシャフトブッシュが歪む。

★ 当たり方、角度などによって順序に違いはありますが、金属パーツへの影響をできるだけ小さくするように作られています。
★ フロントバンパー、ボディマウントロッドには、柔らかく復元力の良い樹脂を使用しており、ボディの損傷を最小限にするように設計しています。

エンジン始動／停止ならびに燃料について

⦸ エンジン始動前に必ずエンジンの取扱説明書(付属品)をお読み下さい。
① 送受信機の電池の残量を確認し、送信機、受信機の順序で電源スイッチを入れます。
② 混合燃料用１ℓタンクに、燃料１ℓに対して２サイクルオイル５０mℓ(２０：１)の割合でゆっくりと混ぜ合わせます。
⚠ ２サイクルオイルを少なくするとパワーは上がりますが、エンジンの負担となりオーバーヒートの原因になります。
⦸ 燃料をこぼしたり、入れすぎないようにして下さい。また、燃料の取り扱い方については、「エンジンと燃料の取り扱いについて(Ｐ．３)」の説明を必ずお読み下さい。
③－１ キャブレターの始動ポンプ(ドーム型のクリアー部)を押してドーム内に燃料が入るのを確認して下さい。
③－２ チョークレバーを“閉”にしてスターターノブを引きます。
③－２ 数回スターターノブを引くと始動します。そのままチョークレバーを“開”にし、しばらくアイドリングさせてから走行させて下さい。
⚠ 新しいエンジンは、防錆剤などの影響により初め回転数が上がりませんので、必ず１０分程度のアイドリングを行ってから走行させて下さい。
⚠ また新しいエンジンでは、いきなり高回転にしないで下さい。焼き付けなどエンジンが壊れる原因になります。
④－１ エンジンを停止させるには停止スイッチを押して下さい。
④－２ 走行を終える場合には、エンジン停止後に受信器、送信機の順序で電源スイッチを切ります。
⚠ R/C カーの燃料タンク内の燃料は使い切ることが原則です。



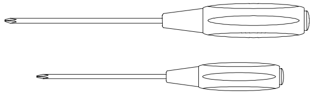
走行後のお手入れについて

★ 燃料タンク内のガソリンが空であることを確認します。
★ エンジンを始動し、自然停止を待ちます。
★ エアーガン等を使用し車体の汚れやほこりを落とします。
★ メカボックスの蓋を開けて R/C 装置のバッテリーコネクターを受信機から抜き取ります。
★ ボディは洗剤等を使用し汚れを洗い流して下さい。洗剤等を付けたままにしますと変形、変色の原因になりますのでご注意下さい。

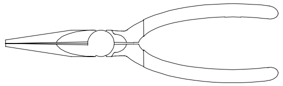
● **本製品に関するご質問、ご相談はお買い上げ店または、エフ・プランニングサポートセンターまで。**

エフ・プランニングサポートセンター
■ ０４４－９８８－３３１１
■ f.planning@mitsuya-lab.co.jp
受付時間：土曜、日曜、祭日を除く
９：００～１２：００
１３：００～１７：００

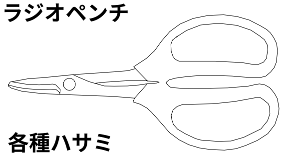
● 使用する工具（別売）



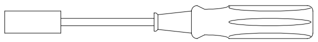
＋ドライバー（大、小）



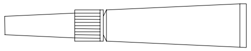
ラジオペンチ



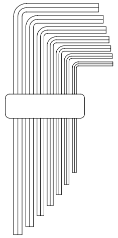
各種ハサミ



ボックスレンチ
（５．５　７　８　１０㎜）



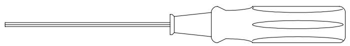
瞬間接着剤

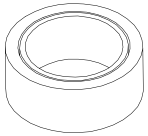


Ｌ型六角レンチセット(ＡＣ１５００)
(１．５　２　２．５　３　４　５　５．５　６㎜)

または

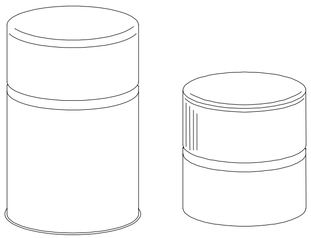
各六角レンチ



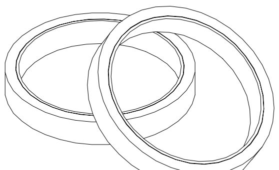


各種両面テープ

● 使用する塗料(ボディ塗装用)（別売）



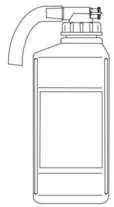
各種塗料



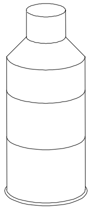
各種マスキングテープ

〈プロポセット〉
弊社オリジナルのプロポセットをご用意しております。詳しくは弊社ホームページを御覧下さい。製品のご注文は、お買い上げの販売店もしくは弊社サポ―トセンターまでお知らせ下さい。

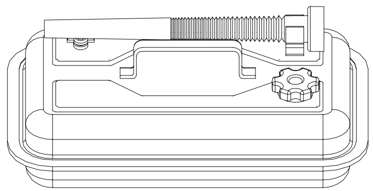
● エンジン始動用品（別売）



混合燃料用タンク 1ℓ
（ＡＣ１６００）

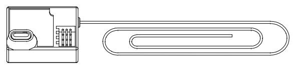


２サイクルオイル 500mℓ
（ＡＣ１９５０）

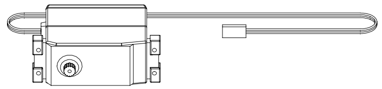


ガソリン用携帯缶 5ℓ
（ＡＣ１６０５）

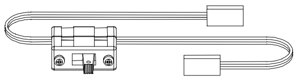
● R/C 装置（別売）



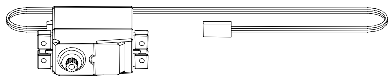
受信器



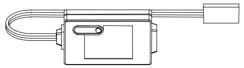
大型１／５ステアリング用サーボ
フタバ（Ｓ５０５０）
ハイテック（ＨＳ－５７３５ＭＧ）など



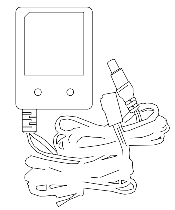
電源用スイッチ
＊専用メカボックスに合う
スイッチをご用意下さい。



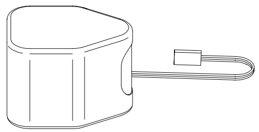
スロットル／ブレーキ用サーボ
５ｋｇ／ｃ㎡以上のサーボ



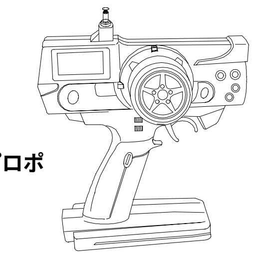
フェールセーフアダプター



ＡＣ充電器
（ＡＣ１００５）



専用バッテリー
当社（ＡＣ１００７）
Ｎｉｃｄ：６Ｖ、１８００ｍＡ
当社（ＡＣ１００８）
Ｎｉｍｈ：６Ｖ、３０００ｍＡ

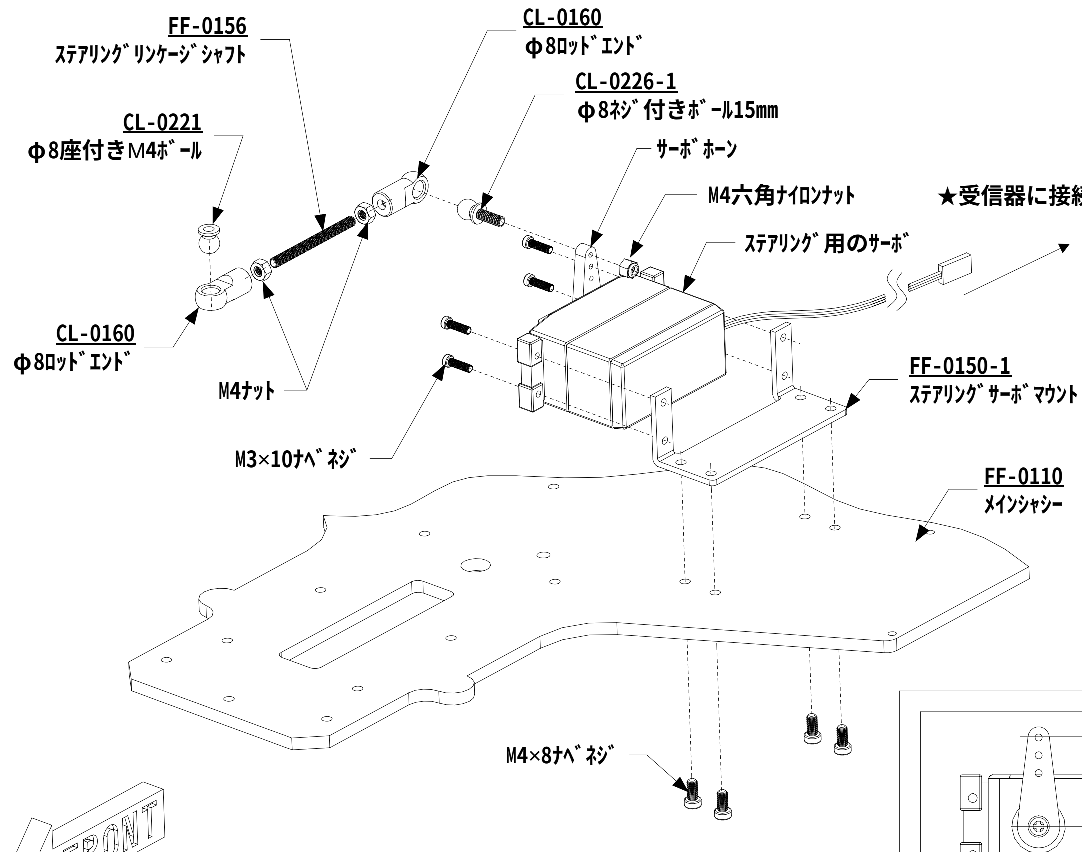


２channel プロポ

★フェールセーフアダプターもしくは、フェールセーフ機能内蔵のプロポセットをご使用下さい。

ステアリングサーボ部の組み立て

⚠サーボなどR/C装置は、取り付ける前に必ずプロポの説明書などを参考にニュートラルの設定を行って下さい。



(略図)

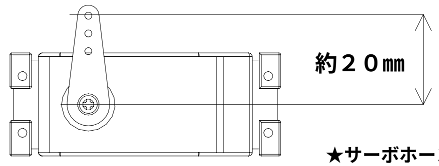
★弊社製φ８、φ１０ボールの脱着には専用のボール脱着工具（ＡＣ０１８０５）が便利です。
★ネジ付きボールにはご使用できませんのでご注意下さい。

■使用する止め具

Ｍ３×１０ナベネジ	×４
Ｍ４×８ナベネジ	×４
Ｍ４六角ナット	×２
Ｍ４六角ナイロンナット	×１

■取り付けるパーツ

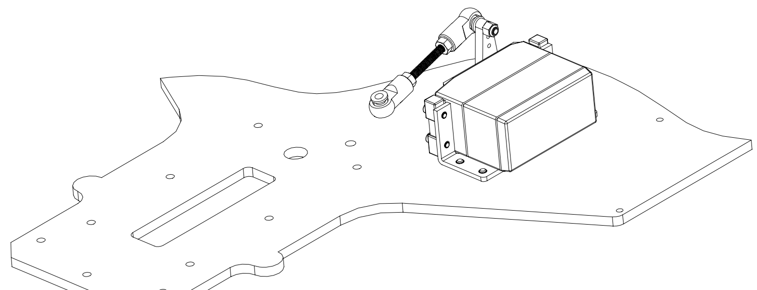
ステアリングサーボマウント（ＦＦ－０１５０－１）	×１
ステアリングリンケージシャフト（ＦＦ－０１５６）	×１
φ８ロッドエンド（ＣＬ－０１６０）	×２
φ８ネジ付きボール１５㎜（ＣＬ－０２２６－１）	×１
φ８座付きＭ４ボール（ＣＬ－０２２１）	×１
ステアリング用のサーボ	×１



●ステアリング用の適合サーボ
フタバ：Ｓ５０５０
ハイテック：ＨＳ－５７３５ＭＧ
★サーボ付属のゴムブッシュは図のように取り付けて下さい。
★サーボホーンの不要な部分はカットして下さい。

★サーボホーンのボール用の取り付け穴は、Ｍ４用に加工して下さい。
★サーボホーンへのボールの取り付け位置は約２０㎜が目安です。

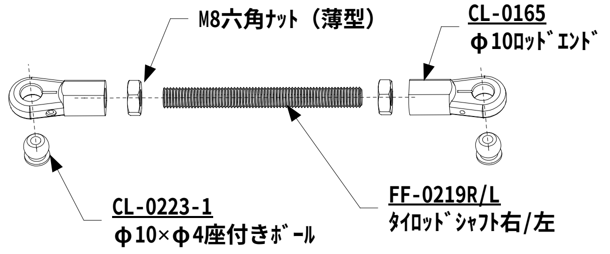
☆ステアリングリンケージシャフト(ＦＦ－０１５６)にＭ４ナットを２個、両端から１５㎜程ネジ込みます。次にφ８ロッドエンド(ＣＬ－０１６０)を両端からねじ込み、全長を約７８㎜に調節し、先にねじ込んでおいたＭ４ナットで固定します。φ８ロッドエンドの方側にφ８座付きボールを圧入します。もう片側にφ８ネジ付きボール１５㎜(ＣＬ－０２２６－１)を圧入します。
☆φ８ロッドエンドに圧入したφ８ネジ付きボールをサーボホーンにＭ４六角ナイロンナットで取り付けます。
☆ステアリング用サーボをステアリングサーボマウント（ＦＦ－０１５０－１）にＭ３×１０ナベネジで取り付けます。次にメインシャシー（ＦＦ－０１１０）にＭ４×８ナベネジで取り付けます。



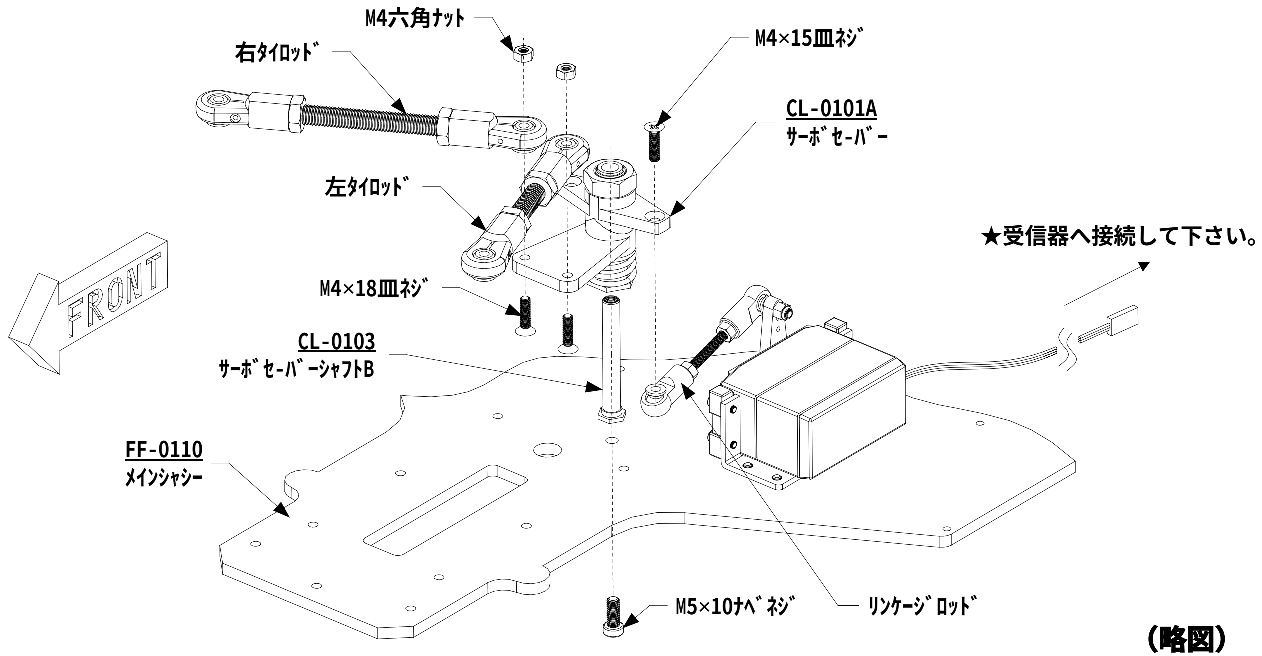
(完成図)

サーボセーバー部の組み立て

⚠サーボなどR/C装置は、取り付ける前に必ずプロポの説明書などを参考にニュートラルの設定を行って下さい。

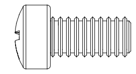


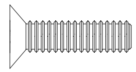
☆タイロッドシャフト右／左（ＦＦ－０２１９Ｒ／Ｌ）にφ１０ロッドエンド（ＣＬ－０１６５）を組み、長さを調節したらＭ８六角ナット（薄型）で固定します。
☆φ１０ロッドエンドに左右同じ方向から、φ１０×φ４座付きボール（ＣＬ－０２２３－１）を取り付けます。
★全長は下記を参照して下さい。
　右タイロッド：約１４０㎜
　左タイロッド：約１１０㎜
★弊社製φ８／φ１０ボールの脱着にはボール脱着工具（ＡＣ１８０５）が便利です。

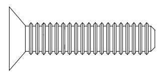


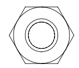
（略図）

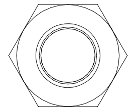
■使用する止め具


Ｍ５×１０ナベネジ　×１


Ｍ４×１５皿ネジ　×１


Ｍ４×１８皿ネジ　×２

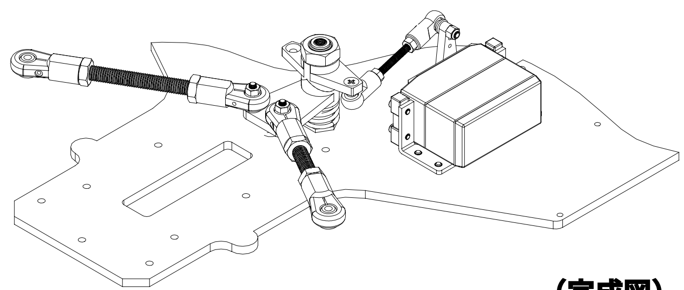

Ｍ４六角ナット　×２


Ｍ８六角ナット（薄型）　×４

■取り付けるパーツ

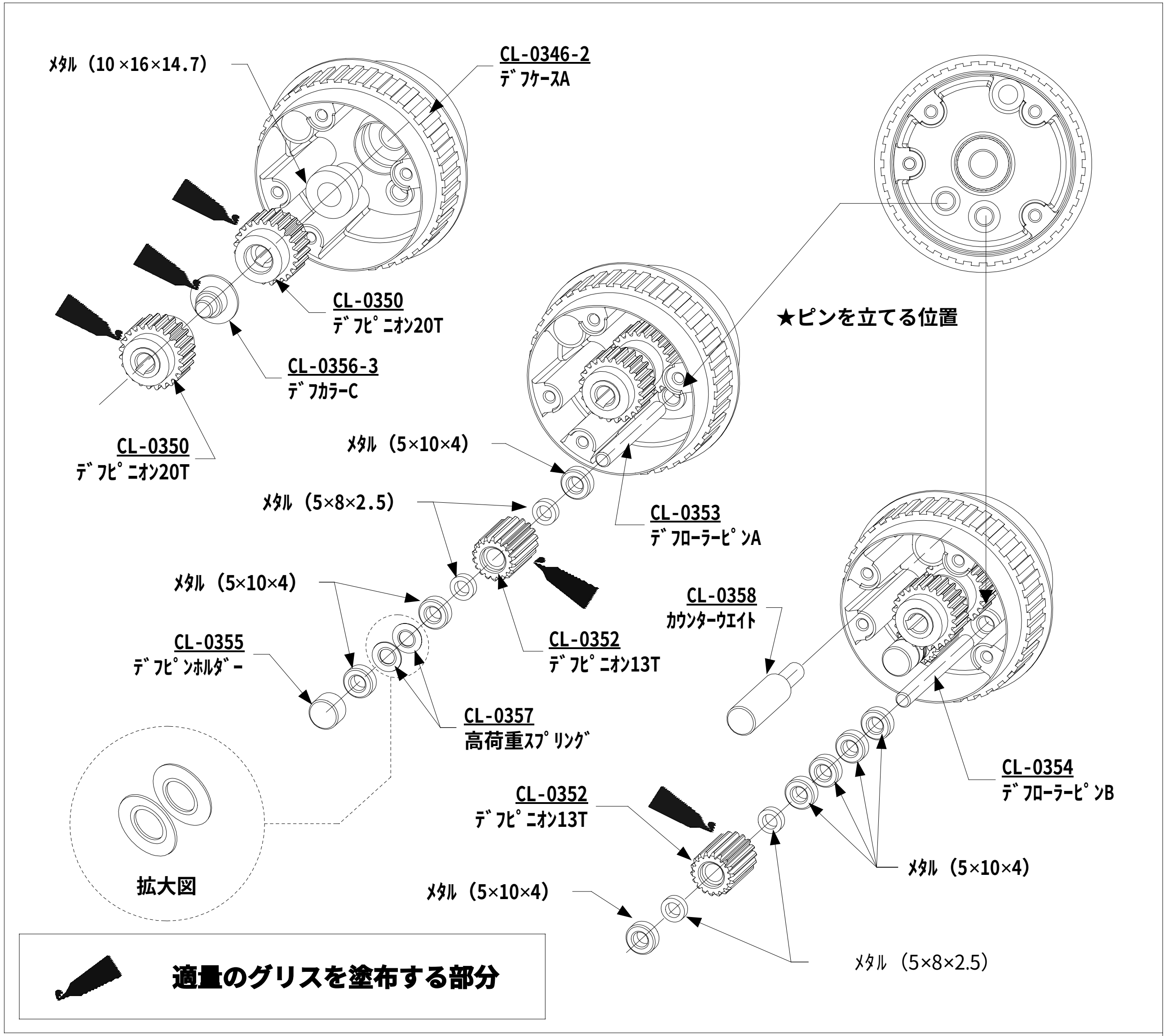
サーボセーバー（ＣＬ－０１０１Ａ）	×１
サーボセーバーシャフトＢ（ＣＬ－０１０３）	×１
φ１０ロッドエンド（ＣＬ－０１６５）	×４
タイロッドシャフト右（ＦＦ－０２１９Ｒ）	×１
タイロッドシャフト左（ＦＦ－０２１９Ｌ）	×１
φ１０×φ４座付きボール（ＣＬ－０２２３－１）	×４

☆メインシャシー（ＦＦ－０１１０）にサーボセーバーシャフトＢ（ＣＬ－０１０３）をＭ５×１０ナベネジで取り付けます。
☆サーボセーバー（ＣＬ－０１０１Ａ）に左右用タイロッドを各々Ｍ４×１８皿ネジとＭ４六角ナットで図のように共締めします。
☆組み立てたサーボセーバーをサーボセーバーシャフトに差し込みます。
☆リンケージロッドをサーボセーバーにＭ４×１５皿ネジで取り付けます。
★送受信機を動作させ、できるだけサーボセーバーのセンターを出すように、リンケージの長さを調節して下さい。



（完成図）

デフギアＢＯＸの組み立て①



■取り付けるパーツ

デフケースＡ（ＣＬ－０３４６－２）	×１
デフピニオン２０Ｔ（ＣＬ－０３５０）	×２
デフピニオン１３Ｔ（ＣＬ－０３５２）	×２
デフローラーピンＡ（ＣＬ－０３５３）	×１
デフローラーピンＢ（ＣＬ－０３５４）	×１
デフピンホルダー（ＣＬ－０３５５）	×１
デフカラーＣ（ＣＬ－０３５６－３）	×１
高荷重スプリング（ＣＬ－０３５７）	×２
カウンターウエイト（ＣＬ－０３５８）	×１
メタル（５×１０×４）	×８
メタル（５×８×２．５）	×４
メタル（１０×１６×１４．７）	×１

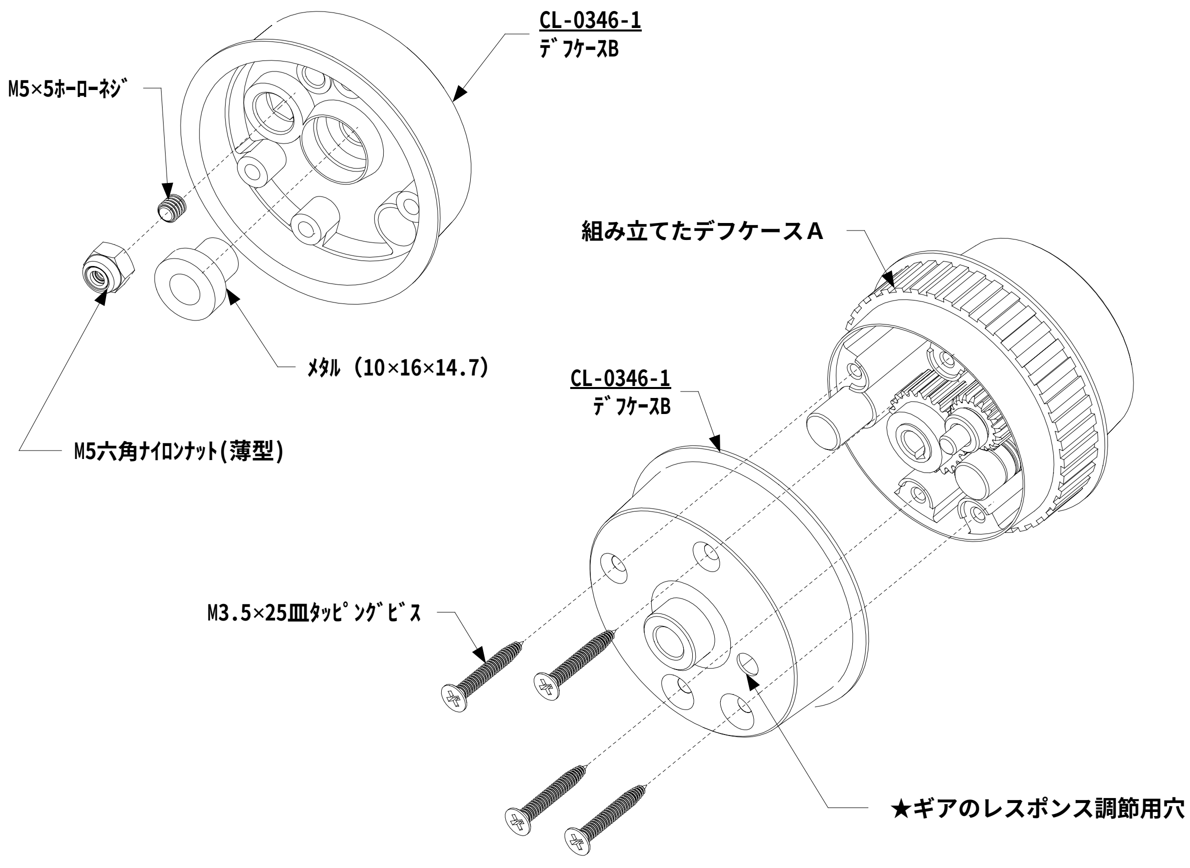
☆デフケースＡ（ＣＬ－０３４６－２）にメタル（１０×１６×１４．７）を差し込み、デフピニオン２０Ｔ（ＣＬ－０３５０）２つでデフカラーＣ（ＣＬ－０３５６－３）を挟み、先に取り付けたメタルの上に配置します。

☆デフローラーピンＡ（ＣＬ－０３５３：４５㎜）をデフケースＡの所定の溝に差し込み、メタル（５×１０×４）、メタル（５×８×２．５）、デフピニオン１３Ｔ、メタル（５×８×２．５）、メタル（５×１０×４）、高荷重スプリング（ＣＬ－０３５７：径の小さい方を尻あわせに２枚差し込みます）、メタル（５×１０×４）、デフピンホルダー（ＣＬ－０３５５）の順番で差し込みます。

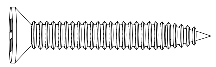
☆デフローラーピンＢ（ＣＬ－０３５４）をデフケースＡの所定の溝に差し込み、メタル（５×１０×４）を４個、メタル（５×８×２．５）、デフピニオン１３Ｔ、メタル（５×８×２．５）、メタル（５×１０×４）の順番で差し込みます。

★ギアには適量のグリスを付けて下さい。

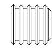
デフギアＢＯＸの組み立て②



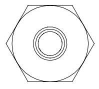
■使用する止め具



Ｍ３．５×２５皿
タッピングビス　×４



Ｍ５×５ホーローネジ　×１



Ｍ５六角ナイロンナット
(薄型)　×１

■取り付けるパーツ

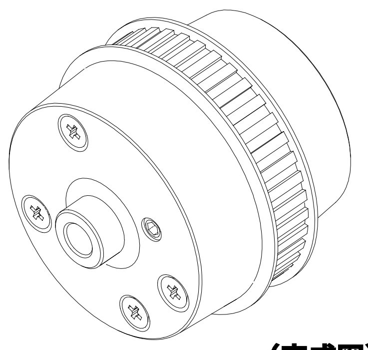
デフケースＢ
（ＣＬ－０３４６－１）　×１

メタル
（１０×１６×１７．５）　×１

組み立てたデフケースＡ　×１

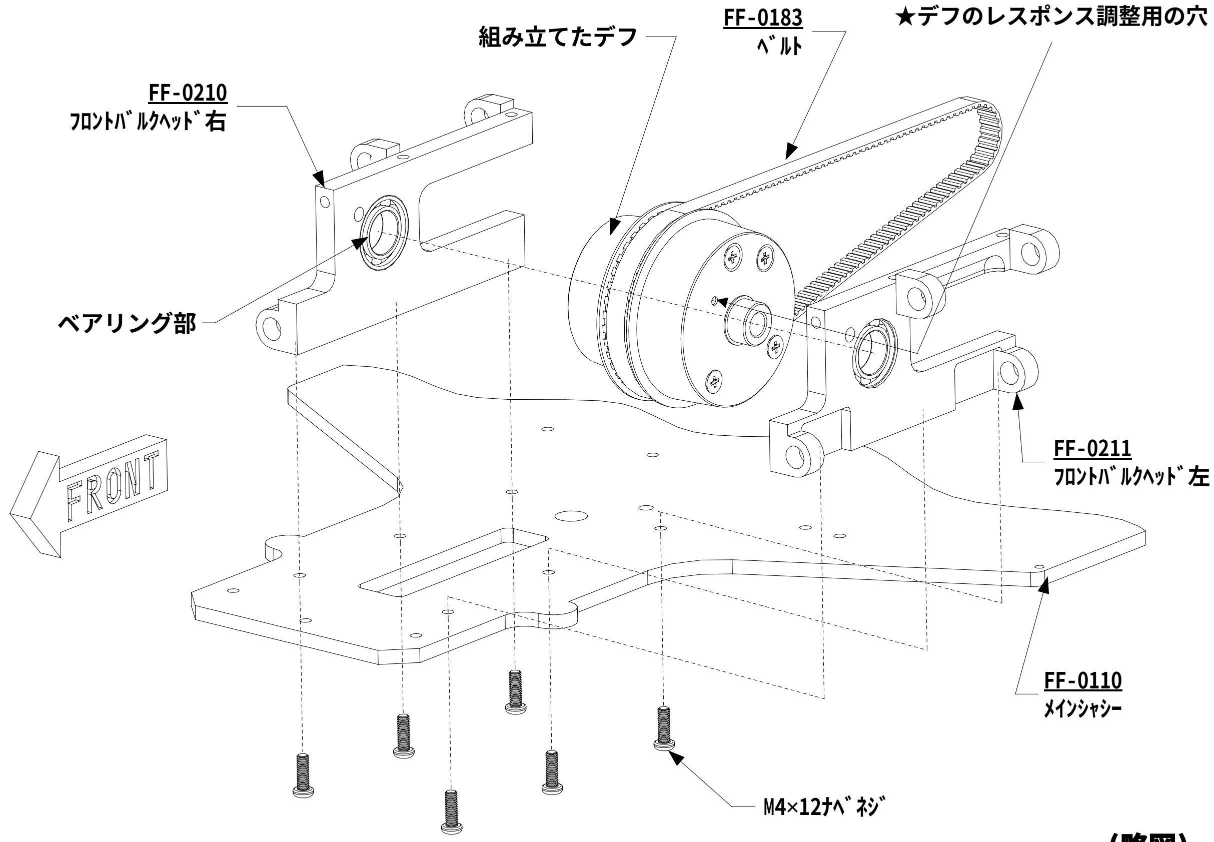
☆デフケースＢ（ＣＬ－０３４６－１）にメタル（１０×１６×１７．５）を差し込みます。
☆Ｍ５ナイロンナットにＭ５×５ホーローネジをねじ込み、デフケースＢに取り付けます。
☆組み立てたデフケースＡとデフケースＢのネジ穴を合わせ、Ｍ３．５×２５皿タッピングビスで固定します。
★弊社の方でデフは調整済みです。後調整は基本的に必要ありませんが、簡単な調整方法を以下に説明します。
①低速コーナーでリアのグリップが少ない場合、レスポンス調整用のホーローネジを１／４回転ねじ込んで下さい。
②グリップの良いコースでは、１／２回転緩めて下さい。

**⚠このホーローネジは、ねじ込み過ぎるとデフケースが破損する可能性があります。
上記調整方法以上に、ねじ込まないようにご注意下さい。**



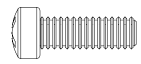
（完成図）

フロントバルクヘッド部の取り付け



(略図)

■使用する止め具

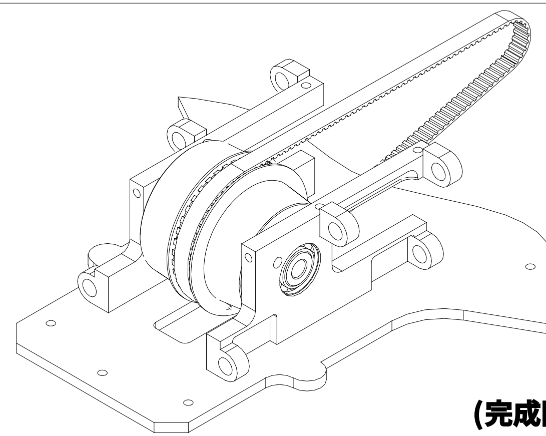


Ｍ４×１２ナベネジ　×６

■取り付けるパーツ

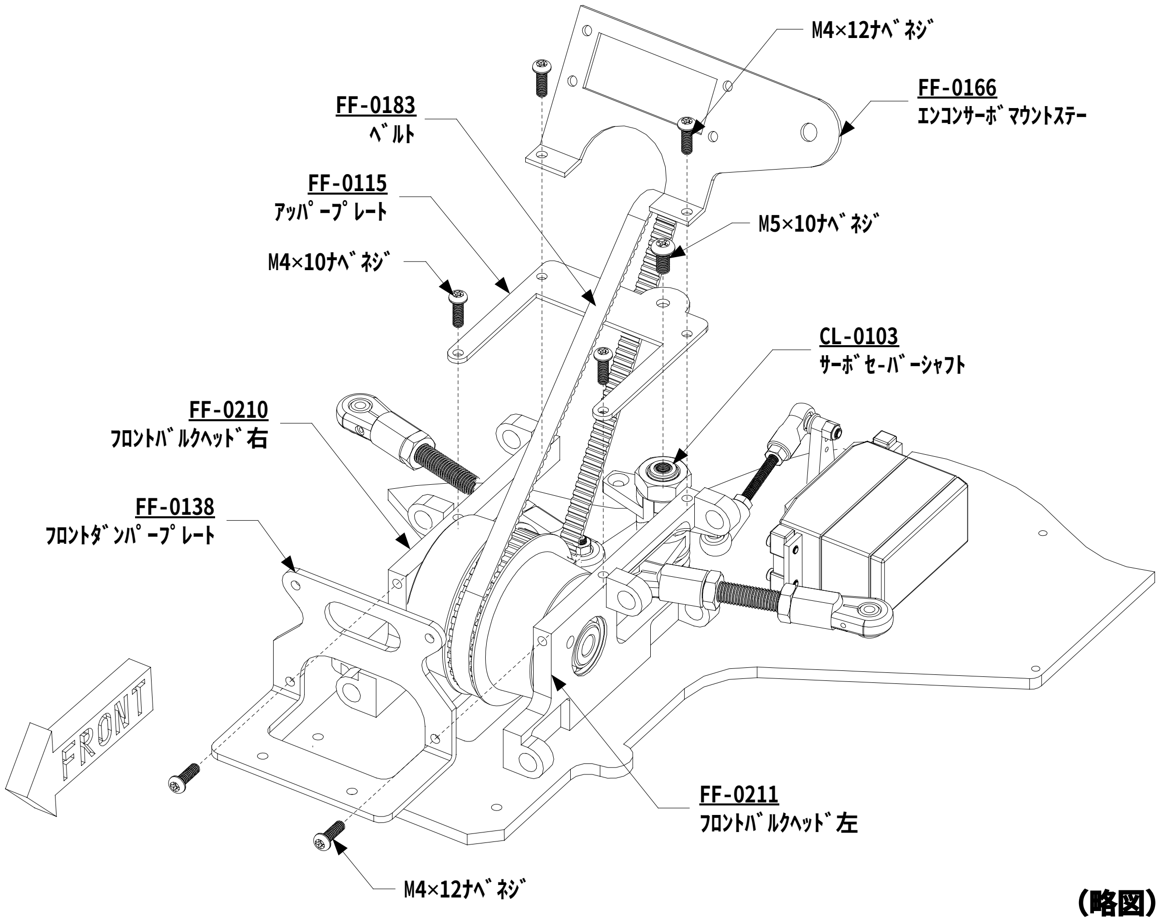
フロントバルクヘッド右（ＦＦ－０２１０）	×１
フロントバルクヘッド左（ＦＦ－０２１１）	×１
組み立てたデフ	×１
ベルト（ＦＦ－０１８３）	×１

☆フロントバルクヘッド右（ＦＦ－０２１０）をメインシャシー（ＦＦ－０１１０）にＭ４×１２ナベネジで仮止めします。
☆デフにベルト（ＦＦ－０１８３）を回し、フロントバルクヘッド右のベアリング部に差し込みます。
☆フロントバルクヘッド左（ＦＦ－０２１１）をデフを挟み込みながら、メインシャシーにＭ４×１２ナベネジで取り付けます。
☆フロントバルクヘッド右を本止めします。
★このデフには向きはありません、左右どちらでも取り付け可能です。



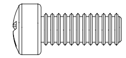
(完成図)

フロント部ステーの取り付け

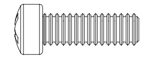


（略図）

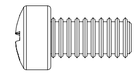
■使用する止め具



Ｍ４×１０ナベネジ　×２



Ｍ４×１２ナベネジ　×４



Ｍ５×１０ナベネジ　×１

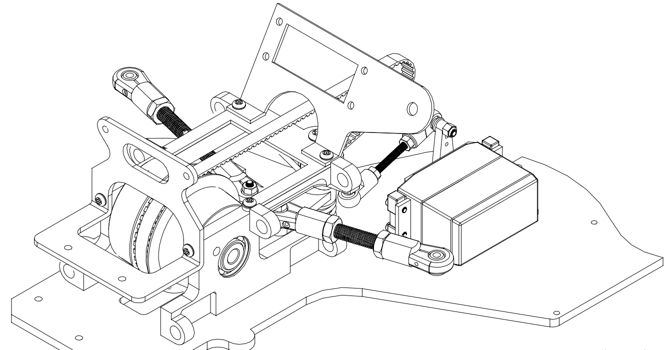
■取り付けるパーツ

アッパープレート（ＦＦ－０１１５）	×１
フロントダンパープレート（ＦＦ－０１３８）	×１
エンコンサーボマウントステー（ＦＦ－０１６６）	×１

☆フロントバルクヘッド左／右（ＦＦ－０２１１／０２１０）にフロントダンパープレート（ＦＦ－０１３８）をＭ４×１２ナベネジで、アッパープレート（ＦＦ－０１１５）をＭ４×１０ナベネジで取り付けます。また、サーボセーバーシャフト（ＣＬ－０１０３）にＭ５×１０ナベネジで取り付けます。

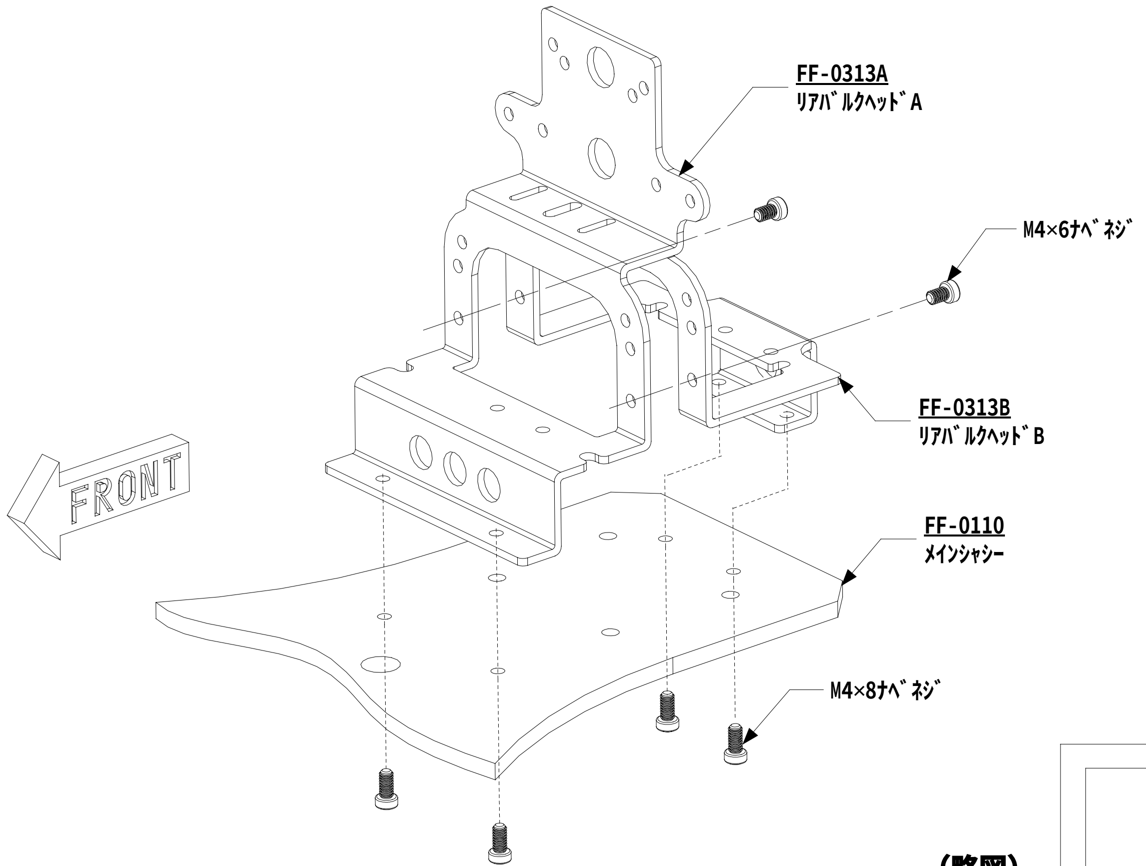
★アッパープレートは、ベルト（ＦＦ－０１８３）を回すように取り付けます。

☆エンコンサーボマウントステー（ＦＦ－０１６６）をアッパープレートを通してフロントバルクヘッド左／右にＭ４×１２ナベネジで取り付けます。



（完成図）

リアバルクヘッドの取り付け



(略図)

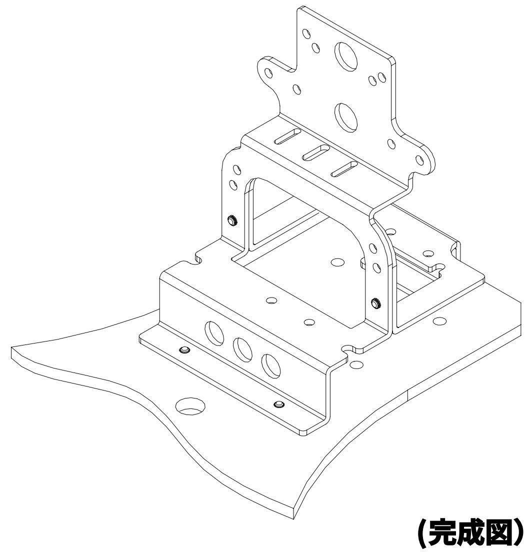
■使用する止め具

	Ｍ４×６ナベネジ	×２
	Ｍ４×８ナベネジ	×４

■取り付けるパーツ

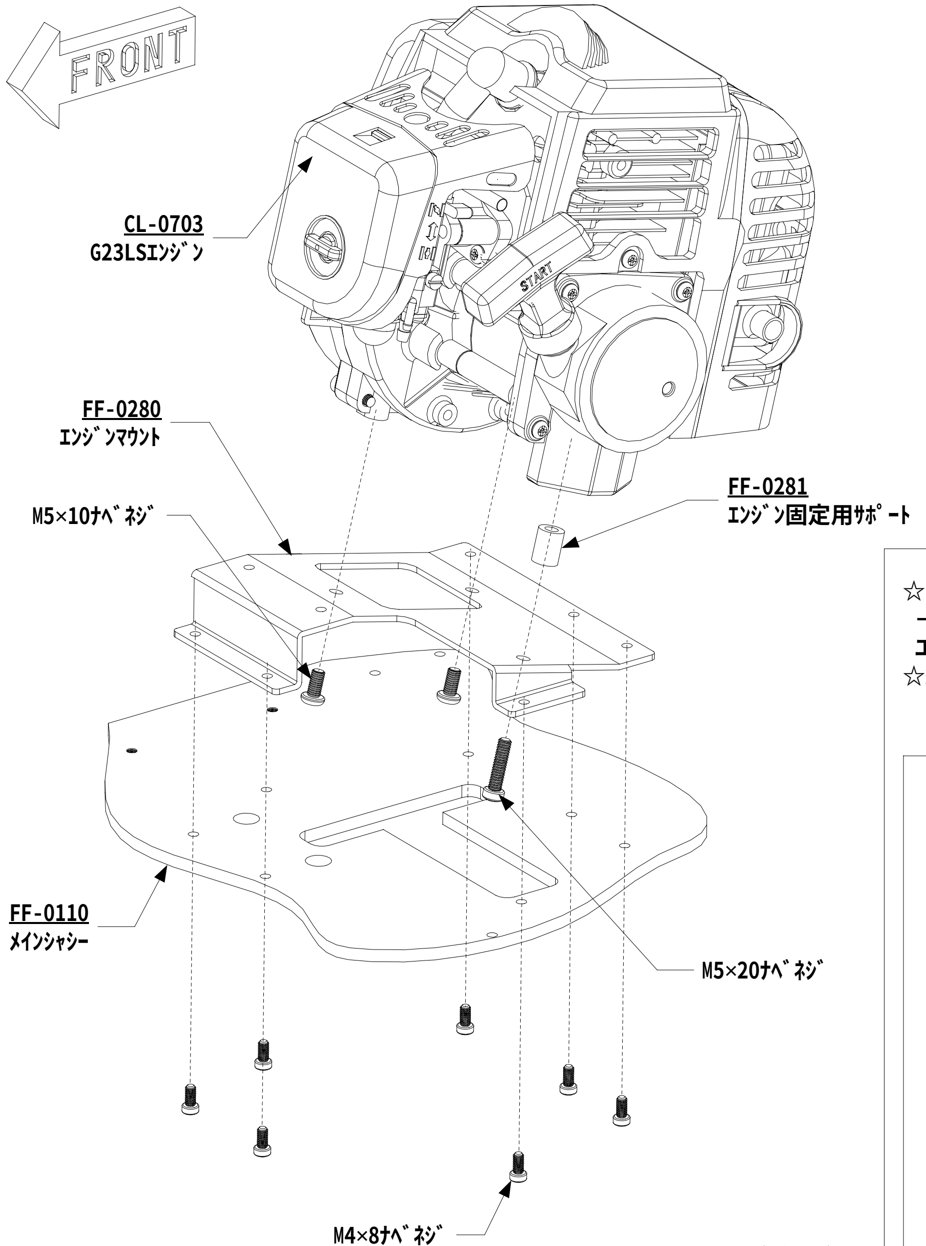
リアバルクヘッドＡ（ＦＦ－０３１３Ａ）	×１
リアバルクヘッドＢ（ＦＦ－０３１３Ｂ）	×１

☆リアバルクヘッドＡ（ＦＦ－０３１３Ａ）にリアバルクヘッドＢ（ＦＦ－０３１３Ｂ）をＭ４×６ナベネジで取り付けます。
☆リアバルクヘッドＡ／Ｂをメインシャシー（ＦＦ－０１１０）にＭ４×８ナベネジで取り付けます。



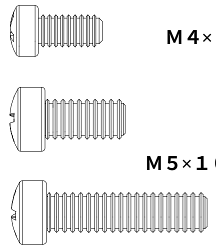
(完成図)

エンジンマウント部の取り付け



（略図）

■使用する止め具



Ｍ４×８ナベネジ　×７

Ｍ５×１０ナベネジ　×２

Ｍ５×２０ナベネジ　×１

■取り付けるパーツ

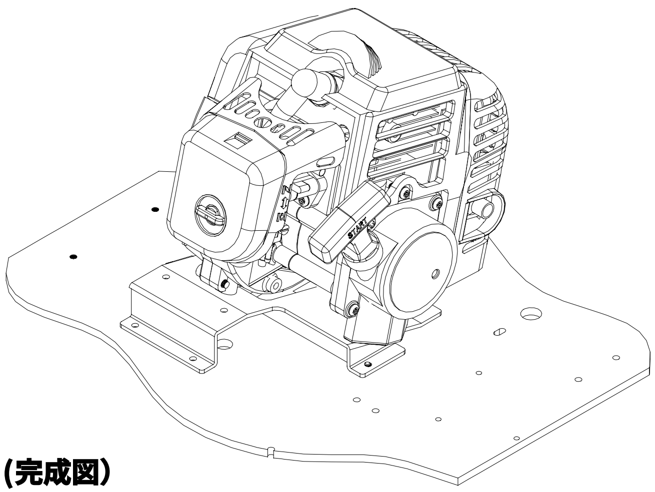
エンジンマウント（ＦＦ－０２８０）　×１

Ｇ２３ＬＳエンジン（ＣＬ－０７０３）　×１

エンジン固定用サポート（ＦＦ－０２８１）　×１

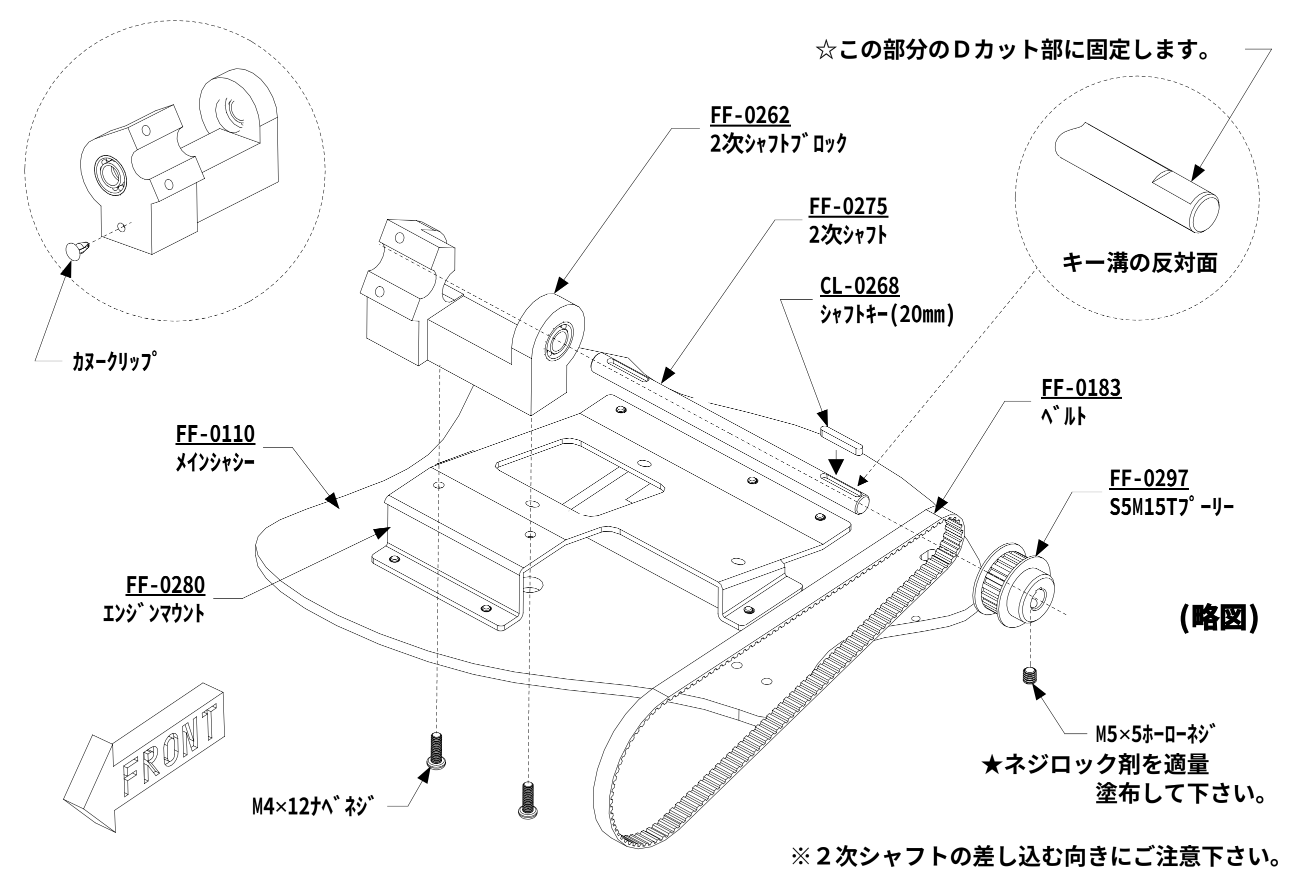
☆Ｇ２３ＬＳエンジン（ＣＬ－０７０３）をエンジンマウント（ＦＦ－０２８０）にＭ５×１０ナベネジで２ヶ所、Ｍ５×２０ナベネジでエンジン固定用サポート（ＦＦ－０２８１）を通し１ヶ所固定します。

☆組み立てたエンジンマウントをメインシャシー（ＦＦ－０１１０）にＭ４×８ナベネジで固定します。

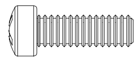


（完成図）

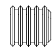
2次シャフト部の取り付け



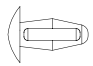
■使用する止め具



Ｍ４×１２ナベネジ　×２



Ｍ５×５ホーローネジ　×１

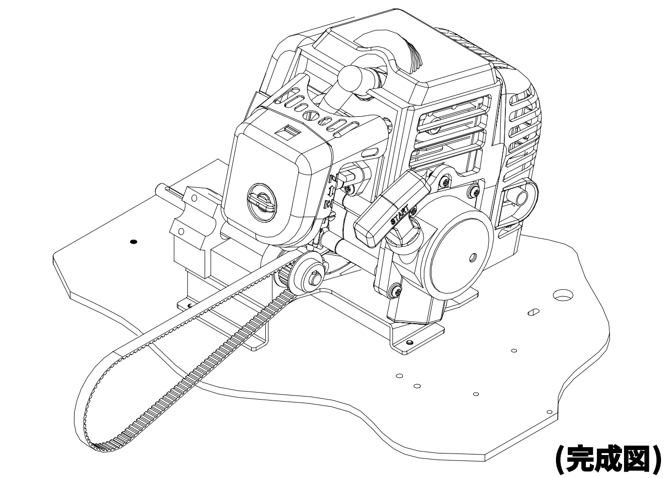


カヌークリップ　×１

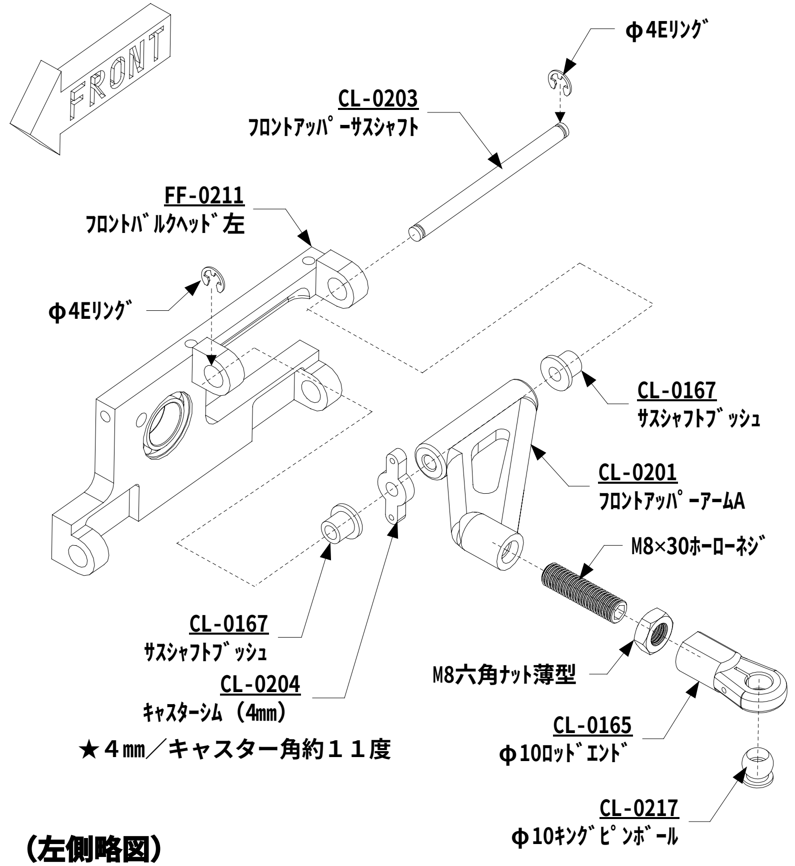
■取り付けるパーツ

ベルト（ＦＦ－０１８３）	×１
２次シャフトブロック（ＦＦ－０２６２）	×１
シャフトキー２０㎜（ＣＬ－０２６８）	×１
２次シャフト（ＦＦ－０２７５）	×１
Ｓ５Ｍ１５Ｔプーリー（ＦＦ－０２９７）	×１

☆２次シャフトブロック（ＦＦ－０２６２）にカヌークリップを取り付けます。
☆２次シャフトブロックをエンジンマウント（ＦＦ－０２８０）にＭ４×１２ナベネジで仮止めします。
☆２次シャフトブロックに２次シャフト（ＦＦ－０２７５）を差し込みます。
★２次シャフトの差し込む向きにご注意下さい。
　（向きは上図キー溝／Ｄカットの位置を参考にして下さい。）
☆２次シャフトの片側のキー溝（端に近い溝）にシャフトキー（ＣＬ－０２６８）を差し込みます。
☆Ｓ５Ｍ１５Ｔプーリー（ＦＦ－０２９７）にデフに回したベルト（ＦＦ－０１８３）を渡し、２次シャフトにキーと溝を合わせながらＭ５×５ホーローネジでＤカット部に固定します。
★このホーローネジは特に緩みやすいので、ネジロック剤を適量付けて下さい。
☆２次シャフトブロックを本止めします。

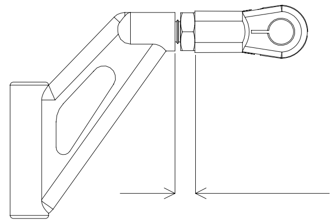

(完成図)

フロントアッパーアームの取り付け

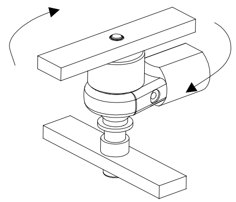


★４㎜／キャスター角約１１度

（左側略図）



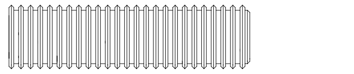
★初期設定：約７㎜／
キャンバー角約２度



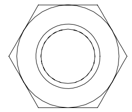
ＡＣ１８０５（別売）
ボール脱着工具

・弊社製ボール専用の脱着用工具です。
★ネジ付きボールを除く、φ８、φ１０ボール共にご使用可能です。

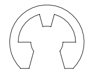
■使用する止め具（左右分）



Ｍ８×３０ホーローネジ ×２



Ｍ８六角ナット薄型 ×２

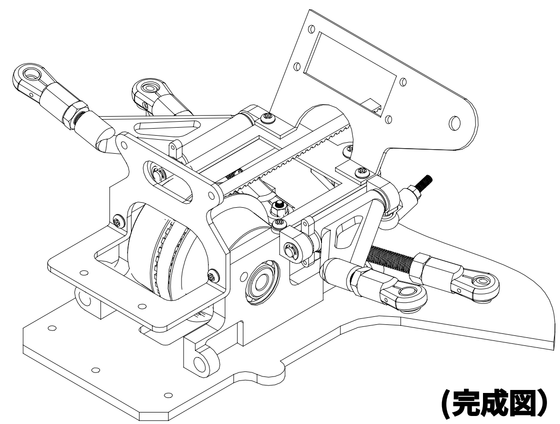


φ４Ｅリング ×４

■取り付けるパーツ（左右分）

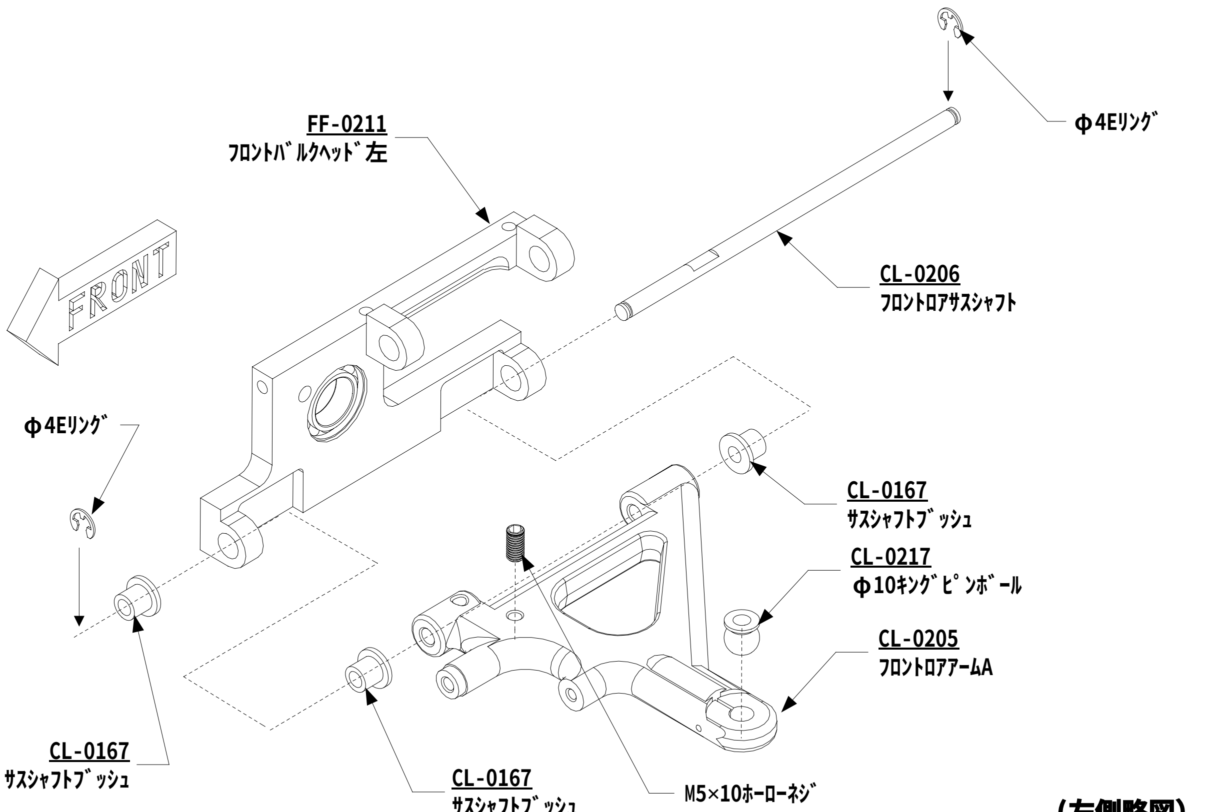
φ１０ロッドエンド（ＣＬ－０１６５）	×２
フロントアッパーアームＡ（ＣＬ－０２０１）	×２
キャスターシム（４㎜）（ＣＬ－０２０４）	×２
フロントアッパーサスシャフト（ＣＬ－０２０３）	×２
サスシャフトブッシュ（ＣＬ－０１６７）	×４
φ１０キングピンボール（ＣＬ－０２１７）	×２

☆フロントアッパーアームＡ（ＣＬ－０２０１）にＭ８×３０ホーローネジを奥までねじ込みます。
ねじ込んだホーローネジにＭ８六角ナット薄型、φ１０ロッドエンド（ＣＬ－０１６５）をねじ込み、フロントアッパーアームＡとφ１０ロッドエンド間を７㎜になるように調節し、Ｍ８六角ナット薄型でロッドエンドを固定します。
★７㎜に調節することでキャンバー角が約２度になります。
☆組み立てたアームのφ１０ロッドエンドに図の方向からφ１０キングピンボール（ＣＬ－０２１７）を押し込みます。
☆フロントバルクヘッド左（ＦＦ－０２１１）にサスシャフトブッシュ（ＣＬ－０１６７）を２ヶ所差し込みます
☆フロントアッパーサスシャフト（ＣＬ－０２０３）の片側の溝にφ４Ｅリングを取り付け、フロントバルクヘッド左のリア側から、組み立てたアッパーアーム、キャスターシム（ＣＬ－０２０４）の順番で差し込み、φ４Ｅリングで固定します。
★キャスターシムの初期設定は４㎜で、キャスター角は約１１度です。
★キャスター角が強ければ直進性が良く、低速コーナーがやや曲がりにくくなります。
★右フロントアッパーアームも同手順で組み立てます。



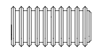
（完成図）

フロントロアアームの取り付け

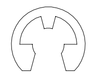


(左側略図)

■使用する止め具（左右分）



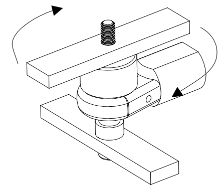
Ｍ５×１０ホーローネジ ×２



φ４Ｅリング ×４

■取り付けるパーツ（左右分）

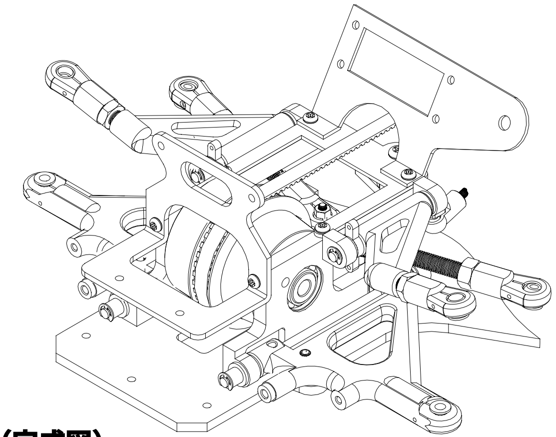
フロントロアアームＡ（ＣＬ－０２０５）	×２
フロントロアサスシャフト（ＣＬ－０２０６）	×２
サスシャフトブッシュ（ＣＬ－０１６７）	×６
φ１０キングピンボール（ＣＬ－０２１７）	×２



ＡＣ１８０５
ボール脱着工具
（別売）

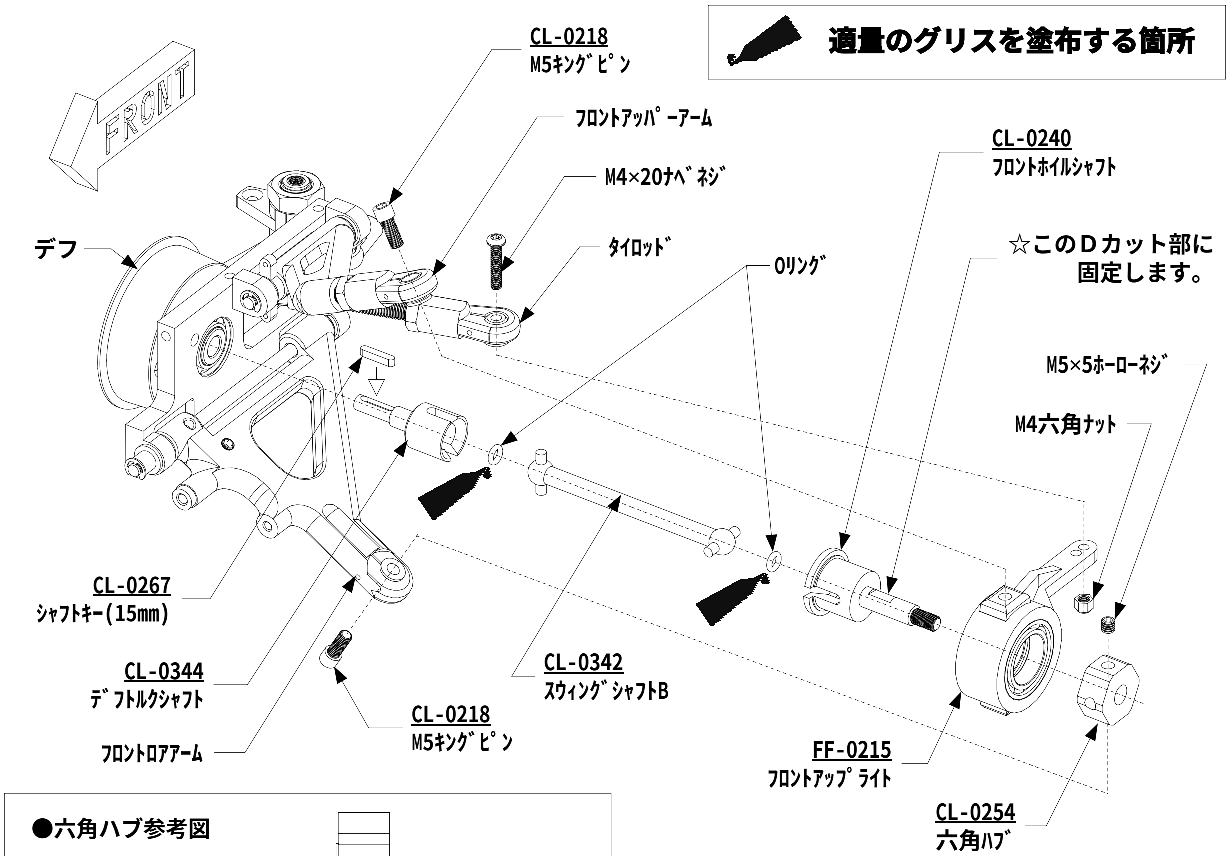
★ネジ付きボールを除く、φ８、φ１０ボールにご使用可能です。

☆サスシャフトブッシュ（ＣＬ－０１６７）をフロントバルクヘッド左（ＦＦ－０２１１）に２個差し込みます。
☆フロントロアアームＡ（ＣＬ－０２０５）にＭ５×１０ホーローネジを車高調節用として、ロアアームの下へ２㎜程出るようにねじ込みます。また、φ１０キングピンボール（ＣＬ－０２１７）を図の方向からはめ込みます。
☆フロントロアサスシャフト（ＦＦ－０２０６）の片側にφ４Ｅリングをはめ、フロントバルクヘッド左とフロントロアアームＡに通し、突き出たシャフトにサスシャフトブッシュをはめ、φ４Ｅリングで固定します。
★フロント側のサスシャフトブッシュを外しオプションのスタビライザーが取り付けられます。
★車高調節用のネジは、メインシャーシーに対して締めると横滑りし易くなり、また緩めるとグリップが上がります。半回転ずつ調節してお好みの設定を見つけて下さい。
★右フロントロアアームも同手順で組み立てます。

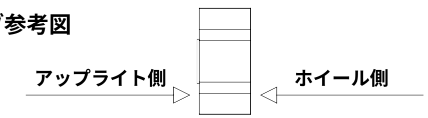


(完成図)

フロントアップライト部の取り付け



●六角ハブ参考図



(左側略図)

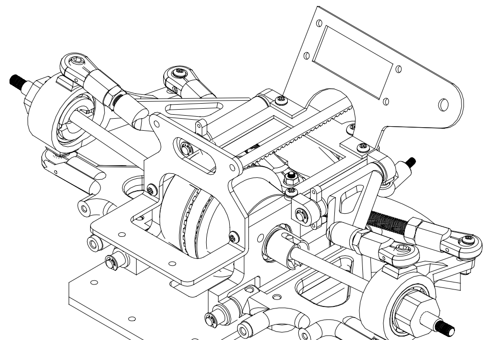
■使用する止め具(左右分)

Ｍ４×２０ナベネジ	×２
Ｍ５×５ホーローネジ	×２
Ｍ４六角ナット	×２

■取り付けるパーツ(左右分)

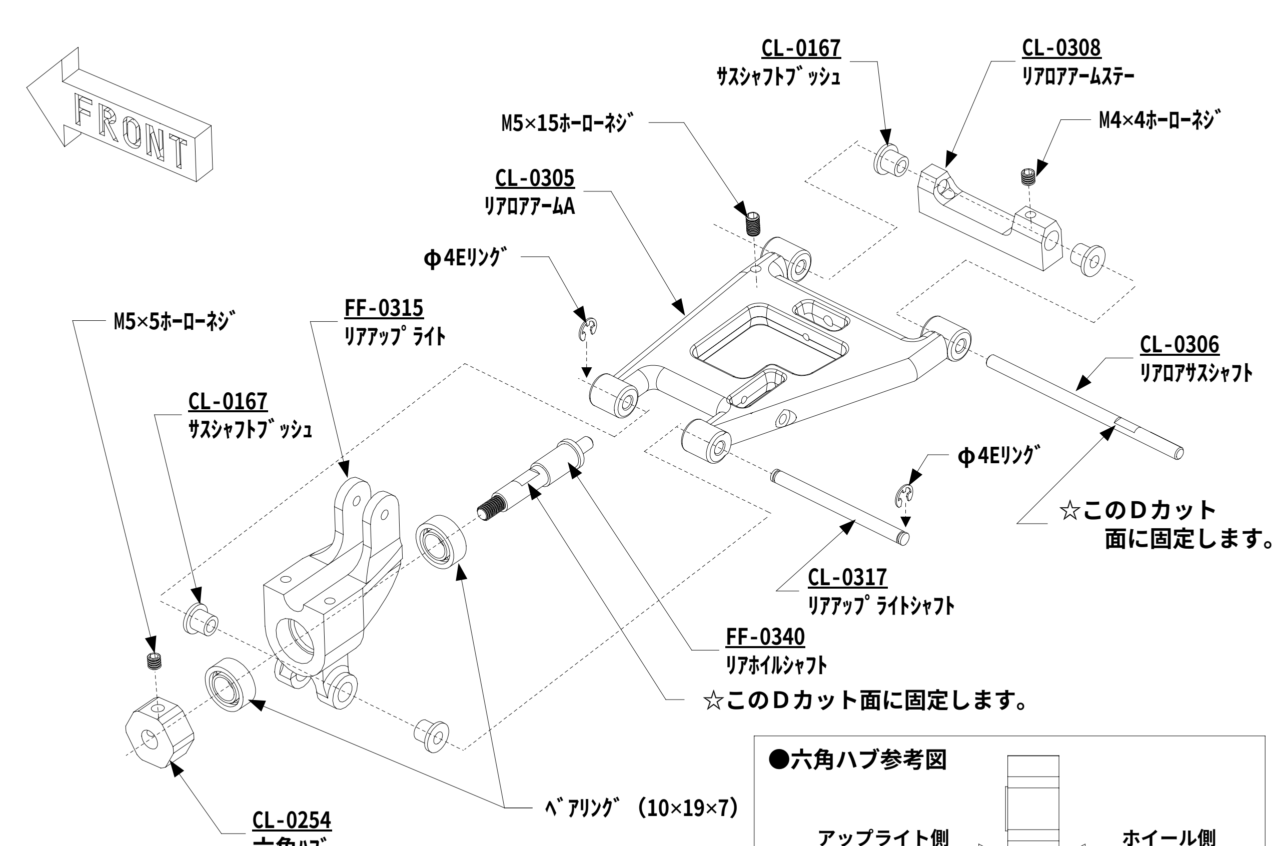
フロントアップライト （ＦＦ－０２１５）	×２
Ｍ５キングピン （ＣＬ－０２１８）	×４
フロントホイルシャフト （ＣＬ－０２４０）	×２
六角ハブ （ＣＬ－０２５４）	×２
シャフトキー１５㎜ （ＣＬ－０２６７）	×２
スウィングシャフトＢ （ＣＬ－０３４２）	×２
デフトルクシャフト （ＣＬ－０３４４）	×２
Ｏリング （外：８．６㎜×厚：１．９㎜）	×４

☆フロントホイルシャフト（ＣＬ－０２４０）とデフトルクシャフト（ＣＬ－０３４４）の内側の溝にＯリングをはめます。
☆フロントアップライト（ＦＦ－０２１５）にフロントホイルシャフトを差し込み六角ハブ（ＣＬ－０２５４）をＭ５×５ホーローネジでシャフトのＤカット部に固定します。
☆シャフトキー(ＣＬ－０２６７)を差し込んだデフトルクシャフトをキーと溝を合わせてデフに差し込みます。
★デフトルクシャフトとフロントホイルシャフトに取り付けたＯリングに適量のグリスを塗布して下さい。
☆図のようにスウィングシャフトＢ（ＣＬ－０３４２）を挟み込みながら、組み立てたアップライトをフロントアッパーアーム、フロントロアアームにＭ５キングピンで取り付けます。
☆タイロッドをフロントアップライトのアーム部にＭ４×２０ナベネジとＭ４六角ナットで取り付けます。
★右フロントアップライトも同手順で取り付けます。



(完成図)

リアロアアーム部の組み立て

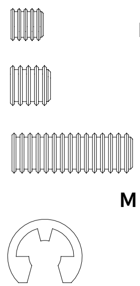


(左側略図)

●六角ハブ参考図

アップライト側　ホイール側

■使用する止め具（左右分）

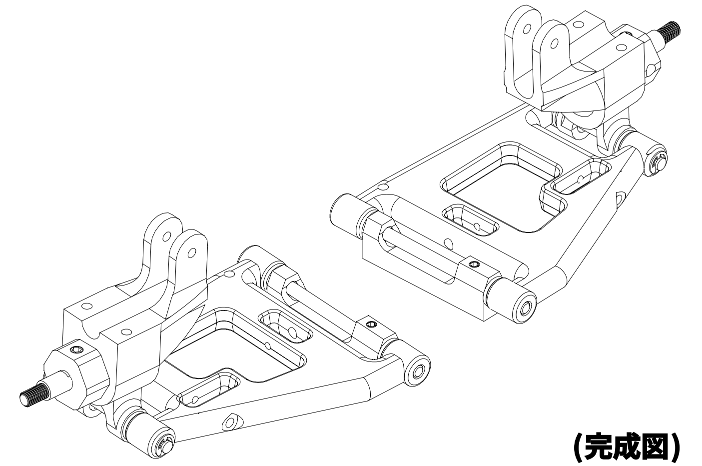


Ｍ４×４ホーローネジ	×２
Ｍ５×５ホーローネジ	×２
Ｍ５×１５ホーローネジ	×２
φ４Ｅリング	×４

■取り付けるパーツ（左右分）

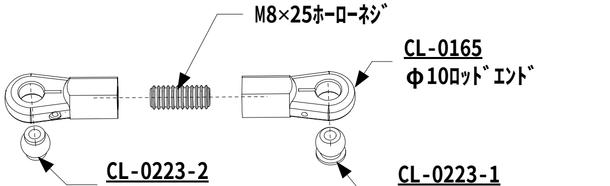
サスシャフトブッシュ（ＣＬ－０１６７）	×４
六角ハブ（ＣＬ－０２５４）	×２
リアロアアームＡ（ＣＬ－０３０５）	×２
リアロアサスシャフト（ＣＬ－０３０６）	×２
リアロアアームステー（ＣＬ－０３０８）	×２
リアアップライト（ＦＦ－０３１５）	×２
リアアップライトシャフト（ＣＬ－０３１７）	×２
リアホイルシャフト（ＦＦ－０３４０）	×２
ベアリング（１０×１９×７）	×４

☆リアロアアームＡ（ＣＬ－０３０５）に車高調節用として、Ｍ５×１５ホーローネジを下に４㎜程出るようにねじ込みます。
☆リアロアアームステー（ＣＬ－０３０８）にサスシャフトブッシュ（ＣＬ－０１６７）を左右から差し込みます。
☆リアロアアームＡとリアロアアームステーにリアロアサスシャフト（ＣＬ－０３０６）を通し、Ｄカット部をＭ４×４ホーローネジで固定します。
☆リアアップライト（ＦＦ－０３１５）にベアリング（１０×１９×７）を２つ圧入し、サスシャフトブッシュを２つ差し込みます。
☆リアアップライトにリアホイルシャフト（ＦＦ－０３４０）を差し込み六角ハブをＭ５×５ホーローネジでＤカット部に固定します。
☆リアアップライトシャフト（ＣＬ－０３１７）の片側の溝にφ４Ｅリングをはめ、組み立てたリアアップライトとリアロアアームＡに通し、もう片方の溝をφ４Ｅリングで固定します。
★リアホイルシャフトはフリーに軽く回ることを確認して下さい。
★車高調節用のネジは、メインシャシーに対して締めると横滑りし易くなり、また緩めるとグリップが上がります。半回転ずつ調節してお好みの設定を見つけて下さい。
★右リアロアアームも同手順で組み立てます。

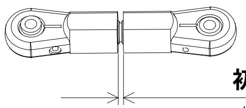


(完成図)

リアサスペンション部の取り付け



リアアッパーアーム完成図

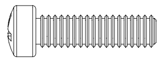


初期設定：約２㎜

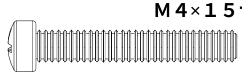
★キャンバー角約２度

☆同じ物を２本作製します。

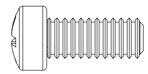
■使用する止め具(左右分)



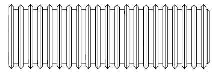
Ｍ４×１５ナベネジ ×２



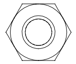
Ｍ４×２５ナベネジ ×２



Ｍ５×１２ナベネジ ×４



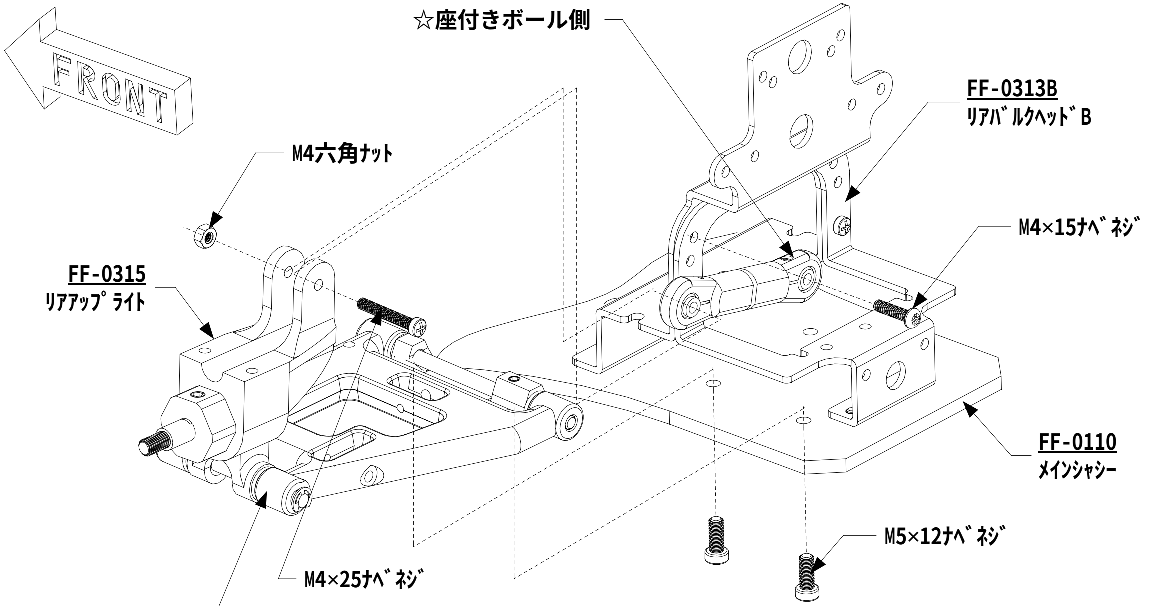
Ｍ８×２５ホーローネジ ×２



Ｍ４六角ナット ×２

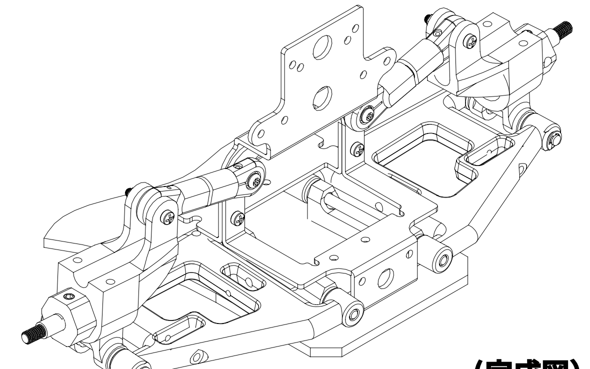
■取り付けるパーツ(左右分)

組み立てたリアロアアーム（左右対称）	×２
φ１０ロッドエンド（ＣＬ－０１６５）	×４
φ１０×φ４座付きボール（ＣＬ－０２２３－１）	×２
φ１０×φ４ボール（ＣＬ－０２２３－２）	×２



(左側略図)

☆Ｍ８×２５ホーローネジにφ１０ロッドエンド（ＣＬ－０１６５）を左右からねじ込みφ１０ロッドエンド間を２㎜程にします。次に、組み立てたφ１０ロッドエンドにφ１０×φ４座付きボール（ＣＬ－０２２３－１）とφ１０×φ４ボール（ＣＬ－０２２３－２）をはめ込みます。
★弊社製ボール（ネジ付きボールを除く）の脱着には、ボール脱着工具（ＡＣ１８０５）が便利です。
☆リアバルクヘッドＢ（ＦＦ－０３１３Ｂ）に組み立てたリアアッパーアームの座付きボール側をＭ４×１５ナベネジで取り付けます。
☆組み立てたリアロアアームのステー部をメインシャシーにＭ５×１２ナベネジで取り付けます。
☆組み立てたリアアッパーアームのもう片側をリアアップライト（ＦＦ－０３１５）にＭ４×２５ナベネジとＭ４六角ナットで取り付けます。
★右リアサスペンションも同手順で取り付けます。



(完成図)

ショックアブソーバーの調整

本製品のショックアブソーバーはお好みに応じてその減衰力を変化させることが可能です(特許出願中)。
走行路面の変化に応じたバネレート変更により再度減衰力を調節していただくと、よりスムーズな走行が期待できます。

●調整方法①●

１．ショックアブソーバー／スプリングＡｓｓｙを車体より取り外します。
２．ショックアブソーバーＡｓｓｙよりスプリングを取り外しショックアブソーバー単体にします。
３．ショックアブソーバーのシャフトを一番奥まで押し込み、さらに左右に回し、もう一段奥に入る部分を探します。
４．シャフトがロックされたことを確認しシャフトを時計方向へ回せば効きが強くなります。ただし一回転以内で調整して下さい。
５．効きを弱くするには、反時計方向へシャフトを回します。
６．左右の効き具合を同等にして再度組み立て、取り付けて下さい。

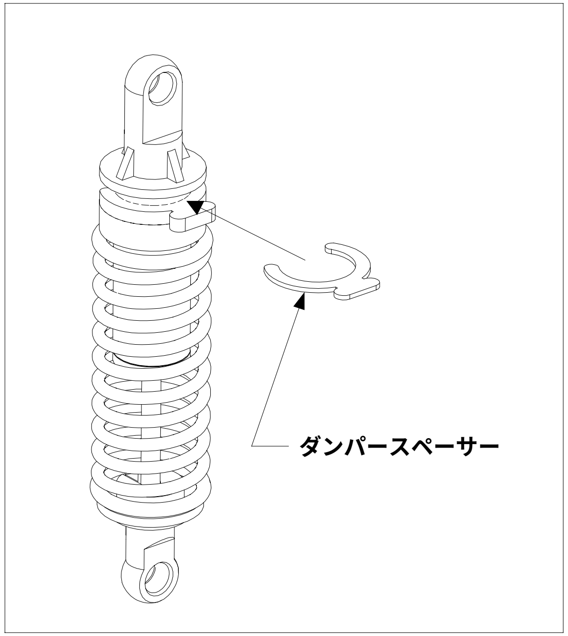
★一般的に強いコイルスプリングに入れ替えた場合にはショックアブソーバーの効きも強くして下さい。

⚠シャフトを緩め過ぎたり締め過ぎると、ショックアブソーバー内部が破損し機能を失いますので、調整には十分注意して下さい。また、ショックアブソーバー自体は密閉式で分解できません、分解致しますと機能を失いますので絶対に分解なさらないようお願い致します。

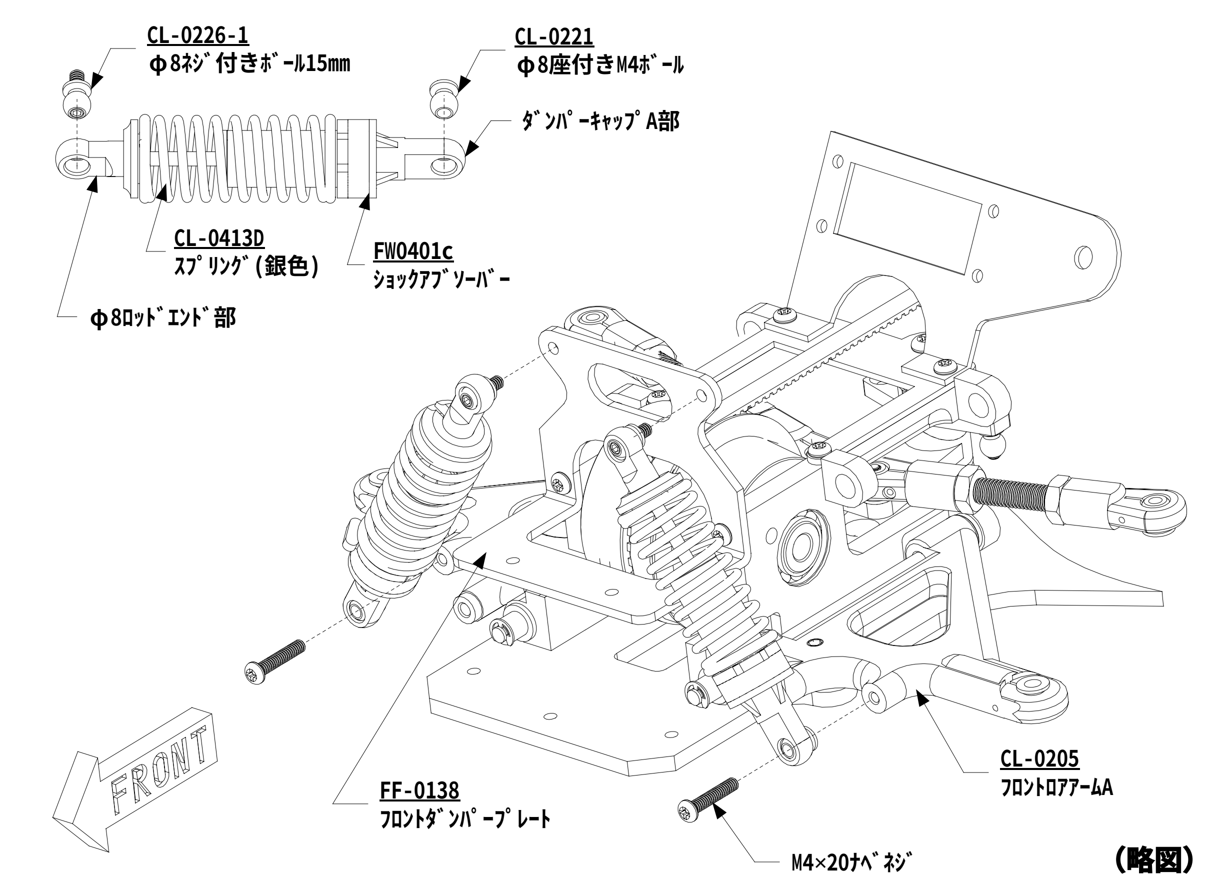


●調節方法②●

★スプリングの硬さはダンパースペーサー(ＣＬ－０４１２)で調節できます。
★スペーサーには、厚みの異なる(１㎜、２㎜、３㎜)３種が付属します。
★スプリングを強めにする(スペーサーを入れる)と車のレスポンスが良くなりますが、安定感がなくなっていきます。
★初期のセットアップのままで走行に支障ありません。スペーサーはお好みで調節して下さい。

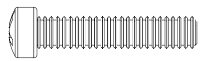


フロントショックアブソーバーの取り付け



(略図)

■使用する止め具

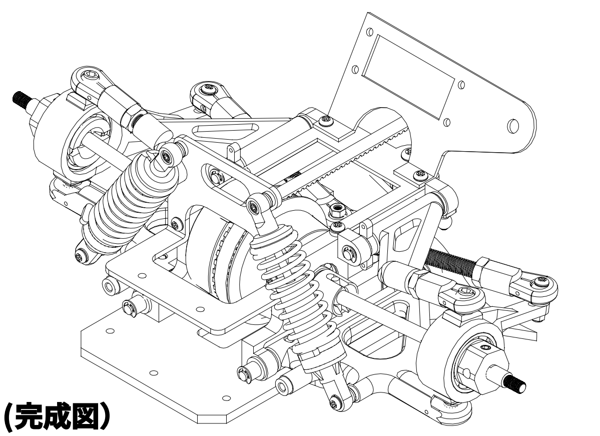


Ｍ４×２０ナベネジ　×２

■取り付けるパーツ

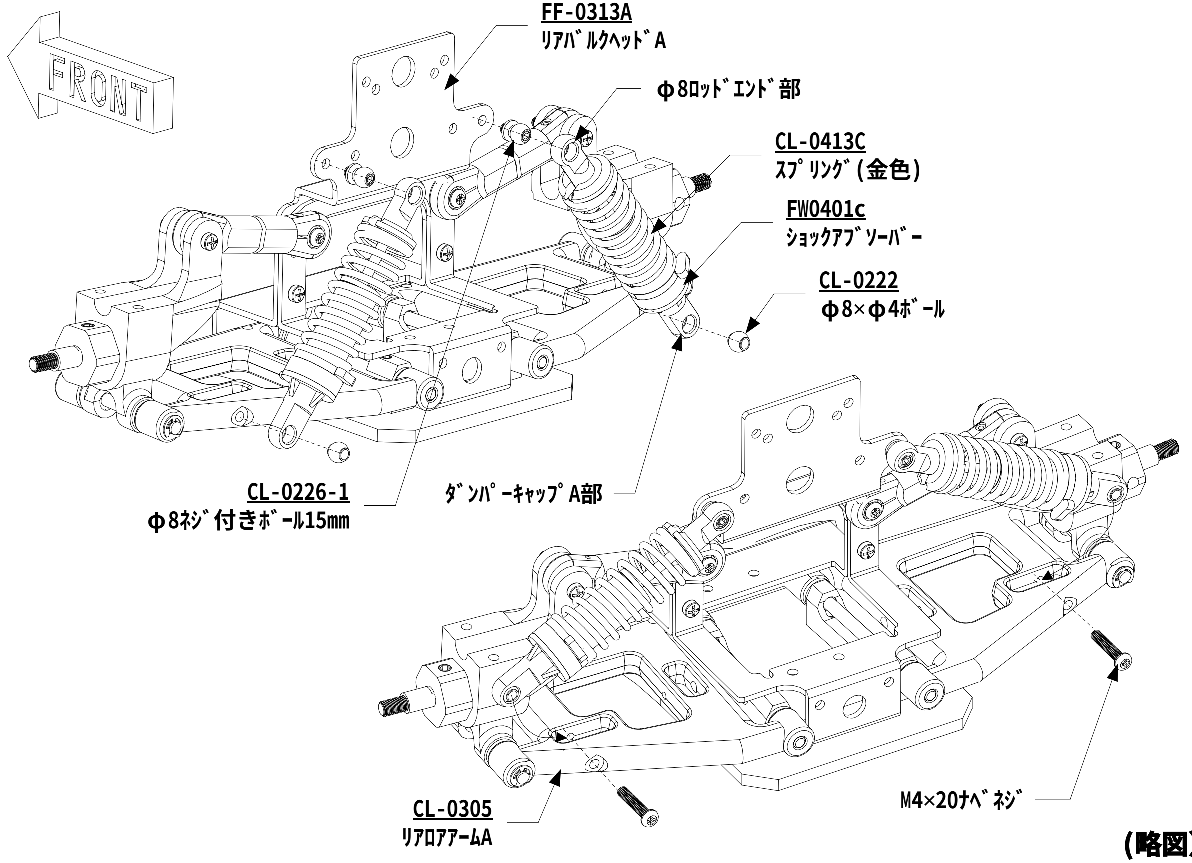
φ８座付きＭ４ボール（ＣＬ－０２２１）	×２
φ８ネジ付きボール１５㎜（ＣＬ－０２２６－１）	×２
ショックアブソーバースプリングＡｓｓｙ	×２

☆ショックアブソーバーＡｓｓｙのφ８ロッドエンド部にφ８ネジ付きボール１５㎜（ＣＬ－０２２６－１）をダンパーキャップＡ部にφ８座付きＭ４ボール（ＣＬ－０２２１）を同じ方向から圧入します。同じ物を２本作製します。
☆φ８ロッドエンド部をフロントダンパープレート（ＦＦ－０１３８）に取り付けます。
☆ダンパーキャップＡ部をフロントロアアームＡ（ＣＬ－０２０５）にＭ４×２０ナベネジで取り付けます。



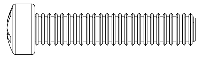
(完成図)

リアショックアブソーバーの取り付け



(略図)

■使用する止め具

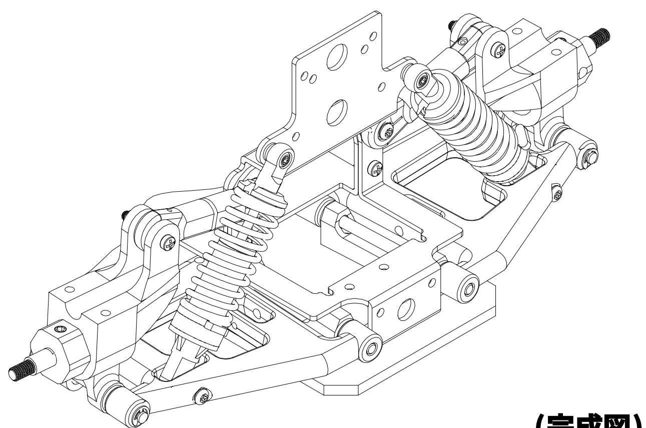


Ｍ４×２０ナベネジ　×２

■取り付けるパーツ

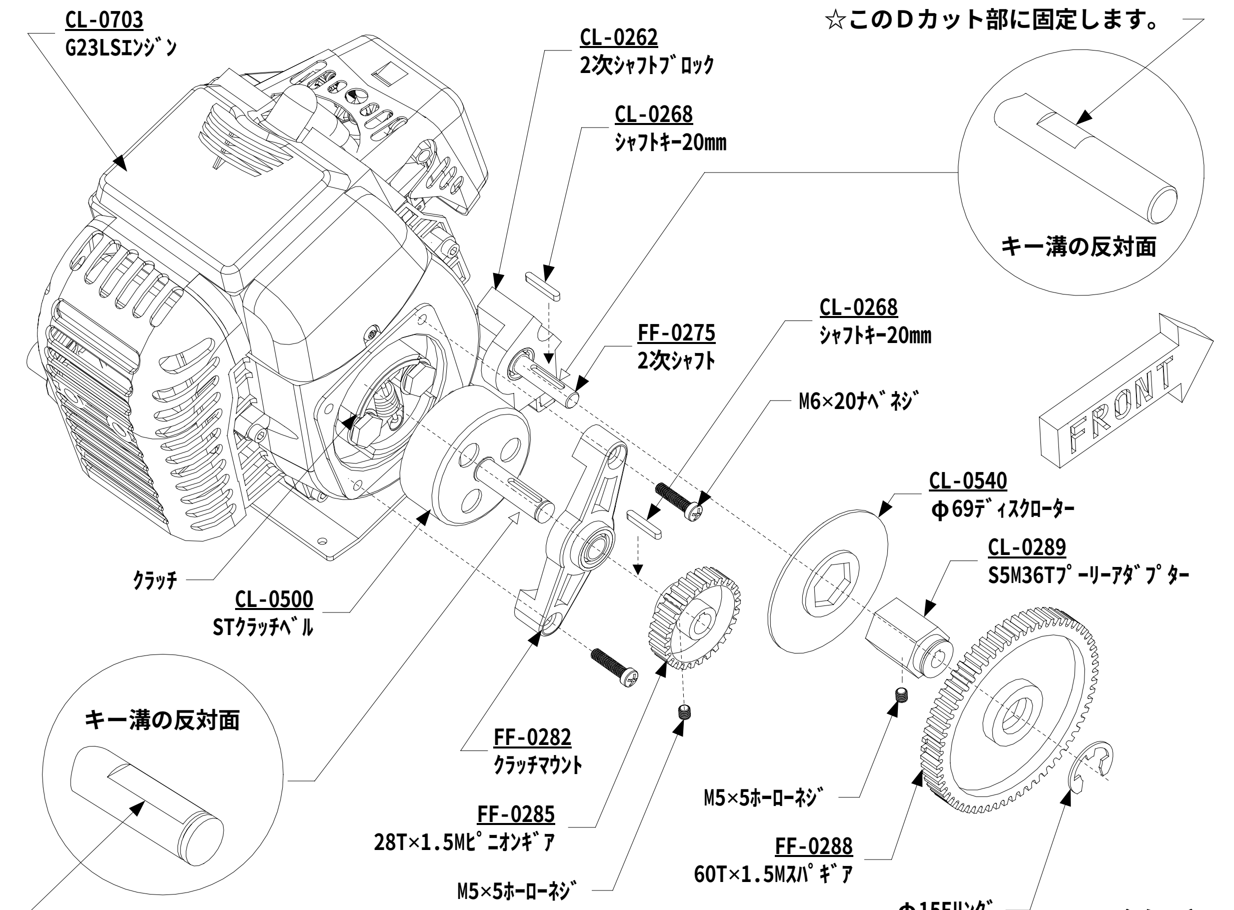
φ８×φ４ボール（ＣＬ－０２２２）　×２
φ８ネジ付きボール１５㎜（ＣＬ－０２２６－１）　×２
ショックアブソーバースプリングＡｓｓｙ　×２

☆ショックアブソーバーＡｓｓｙのφ８ロッドエンド部にφ８ネジ付きボール１５㎜（ＣＬ－０２２６－１）をダンパーキャップＡ部にφ８×φ４ボール（ＣＬ－０２２２）を圧入します。同じ物を２本作製します。
☆φ８ロッドエンド部をリアバルクヘッドＡ（ＦＦ－０３１３Ａ）に図のように取り付けます。
☆リアロアアームＡ（ＣＬ－０３０５）の溝にショックアブソーバーのダンパーキャップＡ部を差し込み、Ｍ４×２０ナベネジで取り付けます。



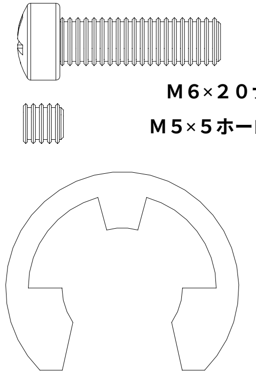
(完成図)

メインギア部の取り付け



(略図)

■使用する止め具

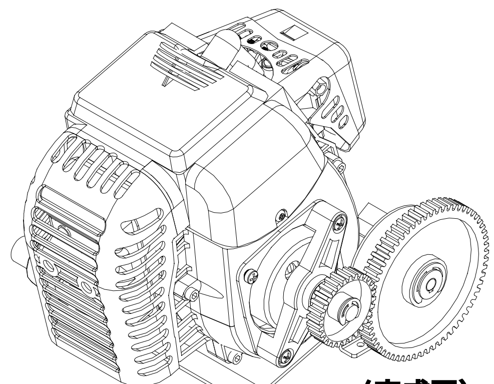


M6×20ナベネジ ×2
M5×5ホーローネジ ×2
φ15Eリング ×1

■取り付けるパーツ(左右分)

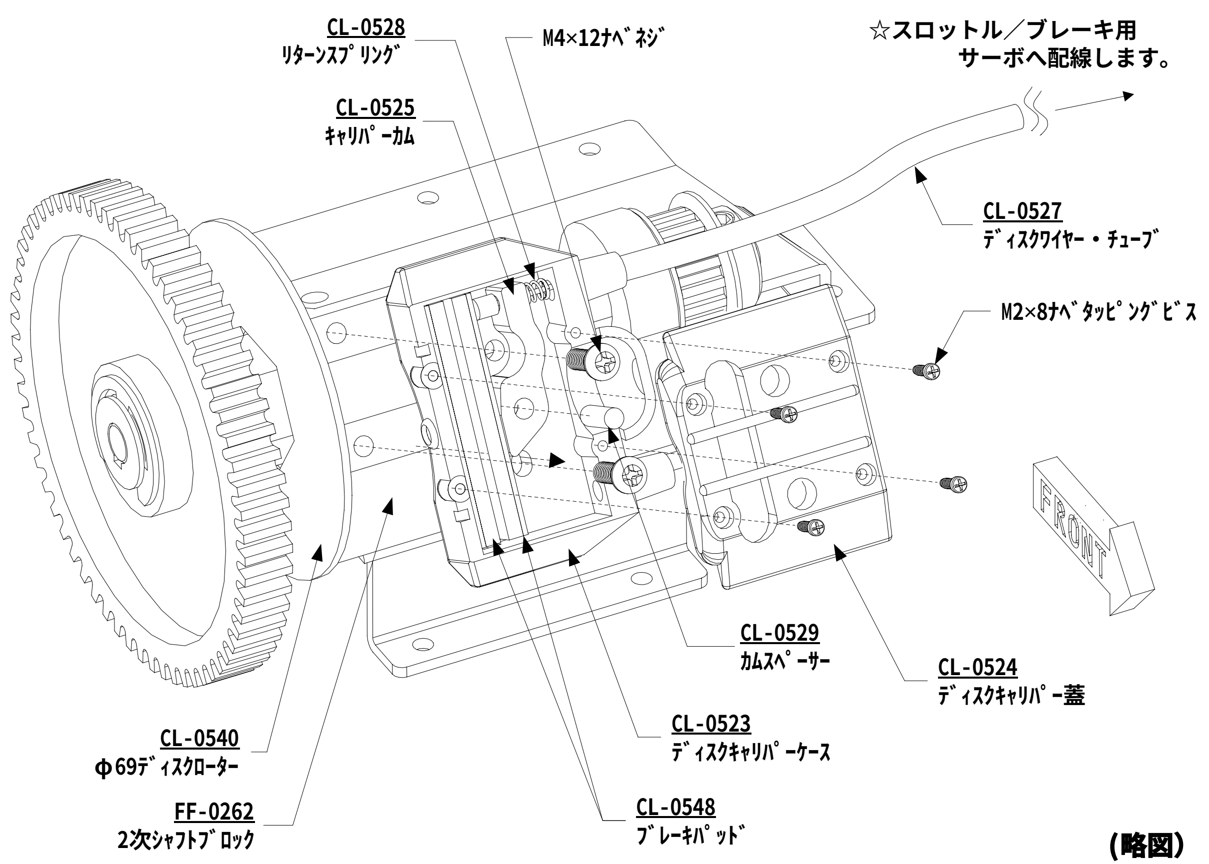
クラッチマウント（FF－0282）	×1
シャフトキー20㎜（CL－0268）	×2
STクラッチベル（CL－0500）	×1
φ69ディスクローター（CL－0540）	×1
28T×1．5Mピニオンギア（FF－0285）	×1
60T×1．5Mスパギア（FF－0288）	×1
S5M36Tプーリーアダプター（CL－0289）	×1

☆STクラッチベル（CL－0500）をクラッチマウント（FF－0282）に差し込み、シャフトキー20㎜（CL－0268）を溝に差し込みます。次に、28T×1．5Mピニオンギア（FF－0285）を5×5ホーローネジでDカット面に固定します。
☆組み立てたクラッチマウントをG23LSエンジン（CL－0703）にM6×20ナベネジで固定します。
☆60T×1．5Mスパギア（FF－0288）にS5M36Tプーリーアダプター（CL－0289）を差し込みφ15Eリングで固定します。
☆2次シャフト（FF－0275）のキー溝にシャフトキー（CL－0268）を差し込みます。
☆組み立てたS5M36Tプーリーアダプターにφ69ディスクローター（CL－0540）を入れます。次に、キーと溝を合わせて2次シャフトのDカット部にM5×5ホーローネジで固定します。
★バックラッシュの調節を下記手順に従い行って下さい。
①2次シャフトブロックを固定しているネジを緩めます。
②ピニオンギアとスパギアの間に新聞紙を2枚挟んだ状態で2次シャフトブロックを本止めします。
③ギアを回し新聞紙を取り除きます。



(完成図)

ディスクブレーキの取り付け



(略図)

■使用する止め具

Ｍ４×１２ナベネジ　×2

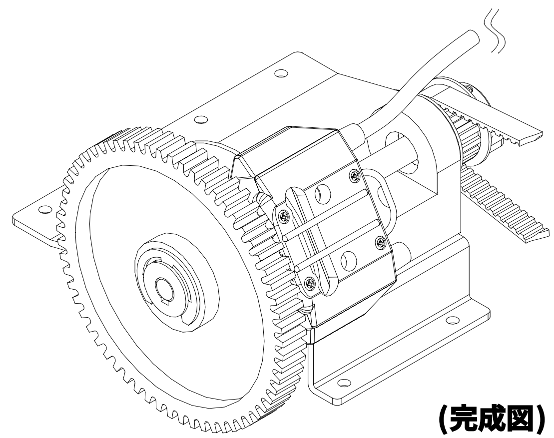
Ｍ２×８ナベタッピングビス　×4

■取り付けるパーツ

ディスクキャリパーケース（ＣＬ－０５２３）	×1
ディスクキャリパー蓋（ＣＬ－０５２４）	×1
キャリパーカム（ＣＬ－０５２５）	×1
ディスクワイヤー・チューブ（ＣＬ－０５２７）	×1
リターンスプリング（ＣＬ－０５２８）	×1
カムスペーサー（ＣＬ－０５２９）	×1
ブレーキパッド（ＣＬ－０５４８）	×2

☆キャリパーカム（ＣＬ－０５２５）とリターンスプリング(ＣＬ－０５２８)にディスクワイヤー（ＣＬ－０５２７）を通します。次に、ディスクワイヤーをディスクキャリパーケース（ＣＬ－０５２３）内側から通し、チューブを被せます。
☆カムスペーサー(ＣＬ－０５２９)をディスクキャリパーケースに差し込みます。次にキャリパーカムをカムスペーサーに通します。
☆ディスクキャリパーケースを２次シャフトブロック（ＦＦ－０２６２）にＭ４×１２ナベネジで取り付けます。
☆ブレーキパッド（ＣＬ－０５４８）をディスクキャリパーケースにφ６９ディスクローター（ＣＬ－０５４０）を挟み込むように配置します。
★ブレーキパッドの樹脂面がφ６９ディスクローター側に配置されていることを確認して下さい。
☆ディスクキャリパー蓋（ＣＬ－０５２４）を図のようにディスクキャリパーケースにＭ２×８ナベタッピングビスで取り付けます。

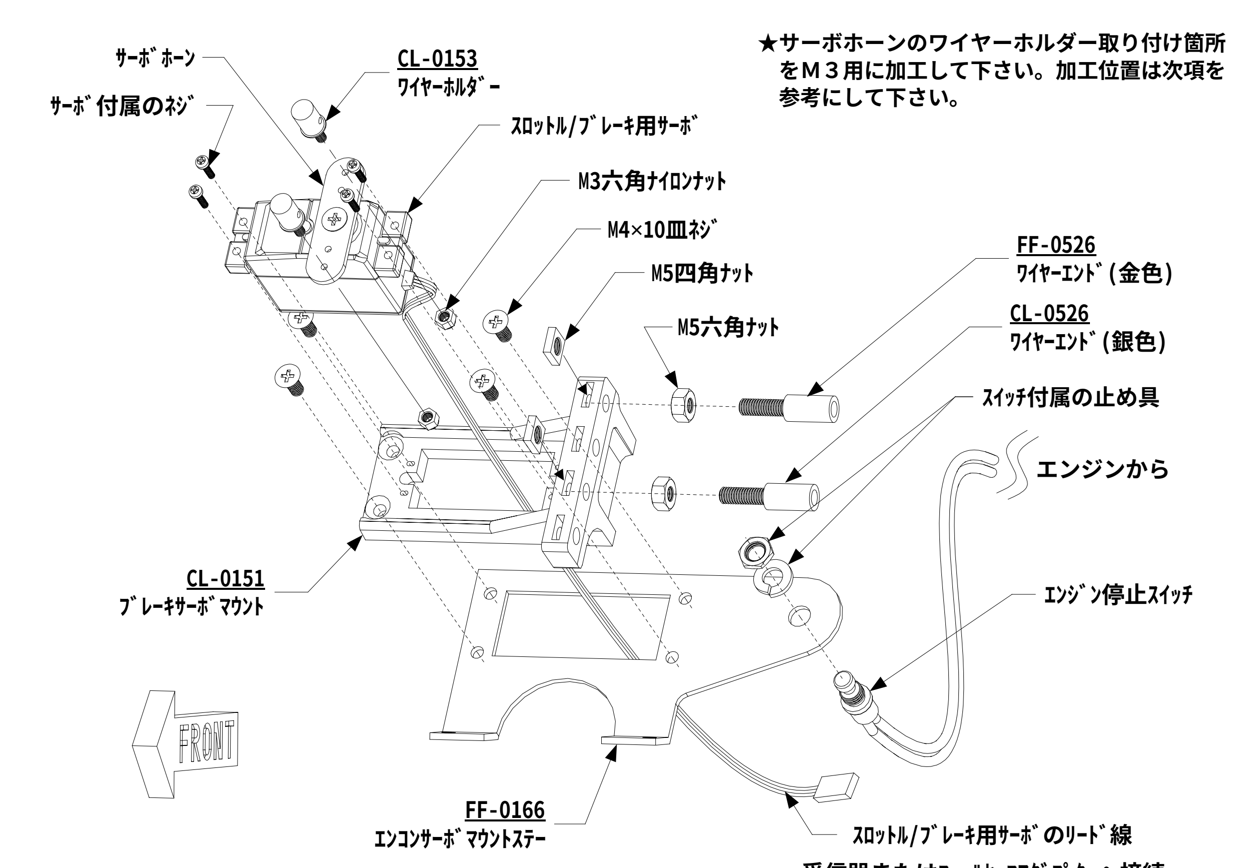
⦸走行後、ディスクローターおよびディスクパッドは非常に高温になり危険です。しばらくは手などを触れないで下さい。



(完成図)

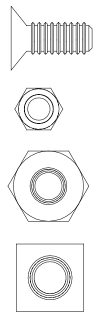
エンジンコントロール部の取り付け

⚠サーボなどR/C装置を取り付ける前に、必ずプロポの説明書などを参考にニュートラルの設定をして下さい。



（略図）

■使用する止め具

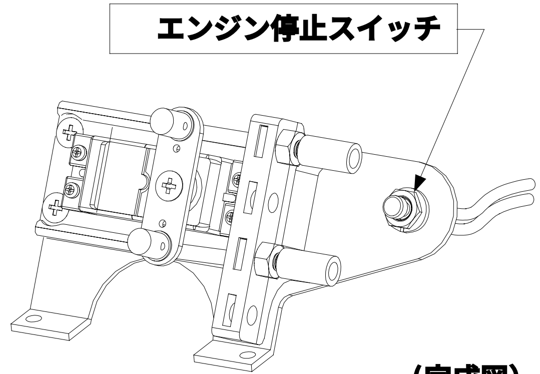


Ｍ４×１０皿ネジ	×４
Ｍ３六角ナイロンナット	×２
Ｍ５六角ナット	×２
Ｍ５四角ナット	×２

■取り付けるパーツ

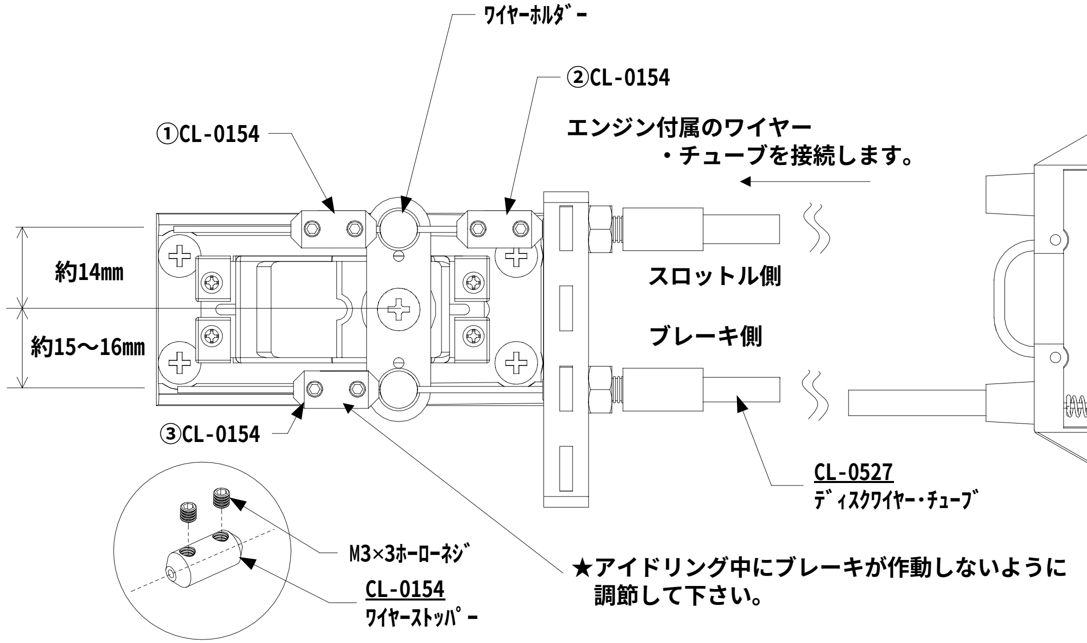
ブレーキサーボマウント（ＣＬ－０１５１）	×１
エンコンサーボマウントステー（ＦＦ－０１６６）	×１
ワイヤーエンド（銀色）（ＣＬ－０５２６）	×１
ワイヤーエンド（金色）（ＦＦ－０５２６）	×１
ワイヤーホルダー（ＣＬ－０１５３）	×２
エンジン停止スイッチ	×１
スロットル／ブレーキ用サーボ	×１

★サーボホーンのワイヤーホルダー取り付け箇所をＭ３用に加工して下さい。加工位置は次項を参考にして下さい。
☆サーボホーンにワイヤーホルダー（ＣＬ－０１５３）をＭ３六角ナイロンナットでワイヤーホルダーが回転できるぐらいのスペースをあけて２ヶ所取り付けます。
☆スロットル／ブレーキ用サーボを上図の向きでブレーキサーボマウント（ＣＬ－０１５１）にサーボ付属のネジで取り付けます。
☆図のようにブレーキサーボマウントの溝にＭ５四角ナットを２ヶ所差し込み、Ｍ５六角ナットをねじ込んだ各ワイヤーエンド（ＣＬ－０５２６／ＦＦ－０５２６）をねじ込みます。次に先程ねじ込んでおいたＭ５六角ナットでワイヤーエンドを固定します。
☆組み立てたブレーキサーボマウントをエンコンサーボマウントステー（ＦＦ－０１６６）にＭ４×１０皿ネジで取り付けます。
★スロットル／ブレーキ用サーボのリード線は、図のように通して下さい。
☆エンジン付属のエンジン停止スイッチをエンコンサーボマウントステーにスイッチ付属の止め具で取り付けます。



（完成図）

エンジンコントロール部の調整



(略図)

☆ワイヤーストッパーには、あらかじめＭ３×３ホーローネジを軽くねじ込んでおきます。

■使用する止め具

Ｍ３×３ホーローネジ ×６

■取り付けるパーツ

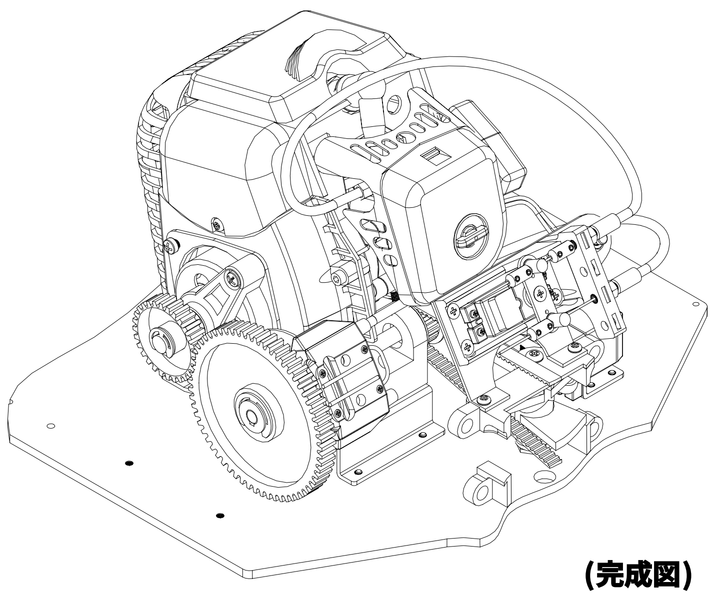
ディスクワイヤー・チューブ（ＣＬ－０５２７）	×１
ワイヤーストッパー（ＣＬ－０１５４）	×３

スロットル側

☆エンジンのスロットルワイヤーと付属のチューブをワイヤーエンド(ＦＦ－０５２６)から差し込みます。
☆差し込んだワイヤーをワイヤーストッパー（ＣＬ－０１５４）、ワイヤーホルダーに通し、ワイヤーストッパーとＭ３×３ホーローネジで仮固定します。
★サーボがニュートラルの状態でワイヤーが緩まないように、またスロットルを引かない所で①のワイヤーストッパーをワイヤーホルダーに接するように固定します。次に、②のワイヤーストッパーをブレーキサーボマウントに接するように固定します。

ブレーキ側

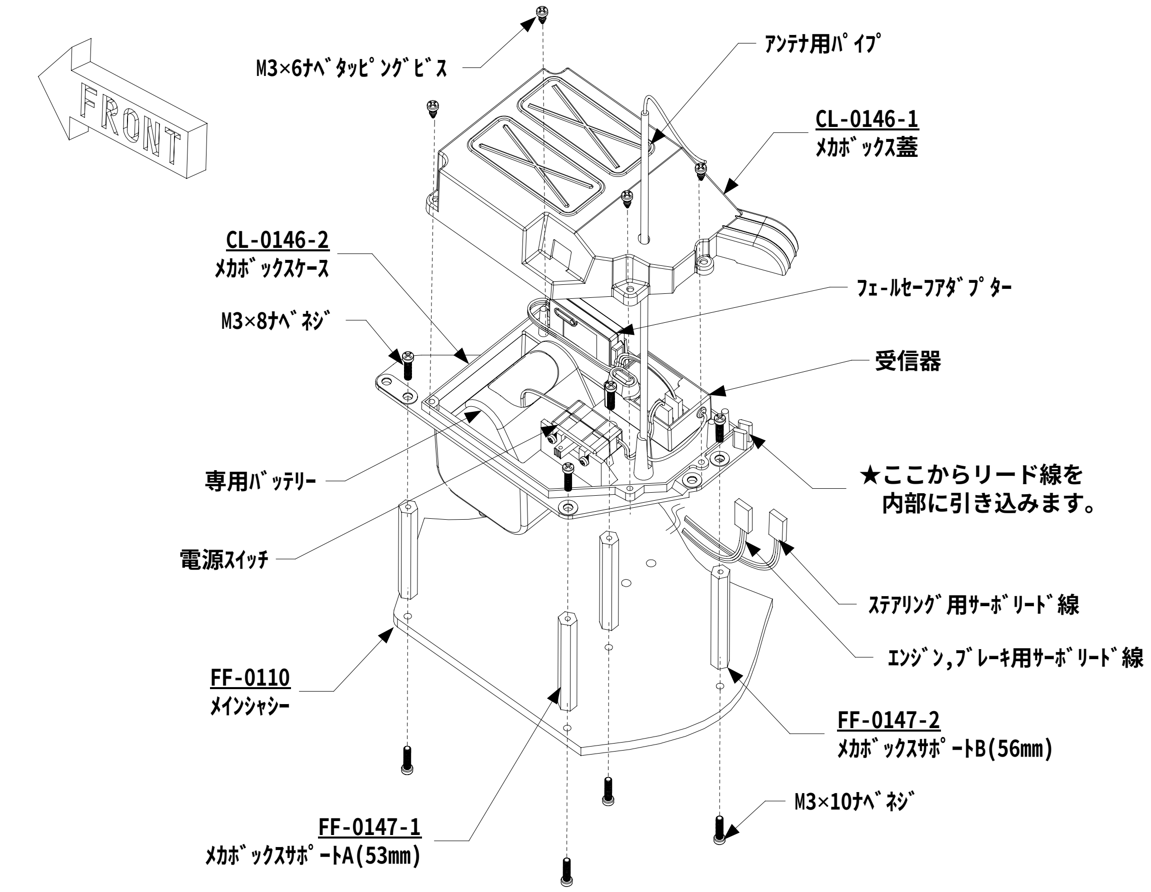
☆ディスクキャリパーに接続したディスクワイヤー(ＣＬ－０５２７)と付属のチューブをワイヤーエンド(ＣＬ－０５２６)から差し込みます。
☆差し込んだワイヤーをワイヤーホルダーに通し、ワイヤーストッパーとＭ３×３ホーローネジで仮固定します。
★送信機のブレーキを使う位置にワイヤーを引き、ワイヤーストッパーを止めます。そこからトリム位置を２０％程強くします。
★ストッパーにはＣＬ－０１５４以外使用しないで下さい。



(完成図)

R/C装置部の取り付け

⚠R/C装置は取り付ける前に必ずプロポの説明書などを参考にニュートラルの設定を行って下さい。



■使用する止め具

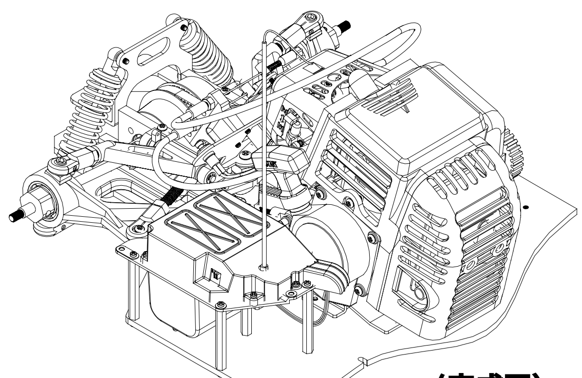
Ｍ３×８ナベネジ	×４
Ｍ３×１０ナベネジ	×４
Ｍ３×６ナベタッピングビス	×４

■取り付けるパーツ

メカボックス蓋（ＣＬ－０１４６－１）	×１
メカボックスケース（ＣＬ－０１４６－２）	×１
メカボックスサポートＡ（５３㎜）（ＦＦ－０１４７－１）	×３
メカボックスサポートＢ（５６㎜）（ＦＦ－０１４７－２）	×１
フェールセーフアダプター	×１
受信器	×１
電源スイッチ	×１
専用バッテリー	×１
アンテナ用パイプ	×１

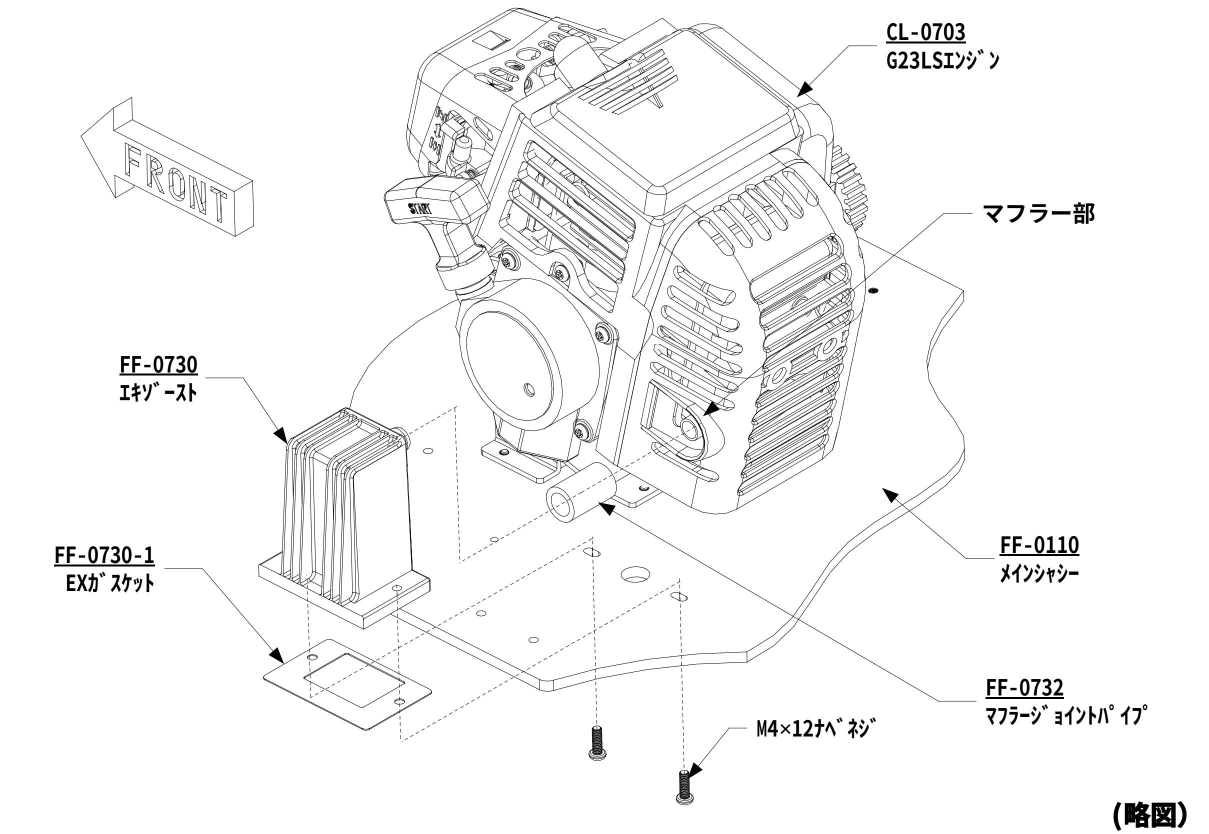
☆メカボックスケース（ＣＬ－０１４６－２）に専用バッテリー(ＣＬ－１００７／１００８)を入れます。
☆電源スイッチのＯＮをケースの刻印に合わせて付属のネジで取り付けます。
☆図のように受信器、フェールセーフアダプターを両面テープ等で固定します。
☆メカボックスサポートＡ（ＦＦ－０１４７－１）を３本、メカボックスサポートＢ（ＦＦ－０１４７－２）を１本メインシャシー（ＦＦ－０１１０）にＭ３×１０ナベネジで取り付けます。
☆組み立てたケースをサポートにＭ３×８ナベネジで取り付けます。
★各配線は、プロポの説明書などを参照して下さい。
☆アンテナを通したアンテナ用パイプをケースに差し込みます。
☆メカボックス蓋（ＣＬ－０１４６－１）をアンテナ用パイプを通しながら、Ｍ３×６タッピングビスで取り付けます。
★フェールセーフアダプターもしくは、フェールセーフ機能内蔵のプロポセットをご使用下さい。

⦸このメカボックスは、防滴構造ではありません。
雨中などで走行させますと、コントロールを失う恐れがあり大変危険です。



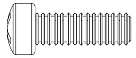
(完成図)

マフラー部の取り付け



(略図)

■使用する止め具



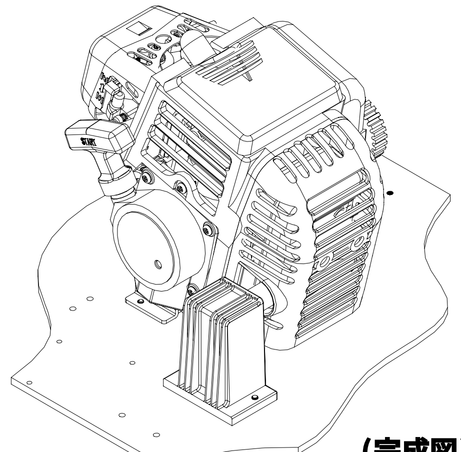
Ｍ４×１２ナベネジ ×２

■取り付けるパーツ

エキゾースト（ＦＦ−０７３０） ×１
ＥＸガスケット（ＦＦ−０７３０−１） ×１
マフラージョイントパイプ（ＦＦ−０７３２） ×１

☆エンジンのマフラー部にマフラージョイントパイプ（ＦＦ−０７３２）を差し込みます。
☆取り付けたマフラージョイントパイプの片側にエキゾースト（ＦＦ−０７３０）を差し込み、ＥＸガスケット(ＦＦ−０７３０−１)をマフラーの底面と合うように挟みながら、メインシャシーにＭ４×１２ナベネジで固定します。

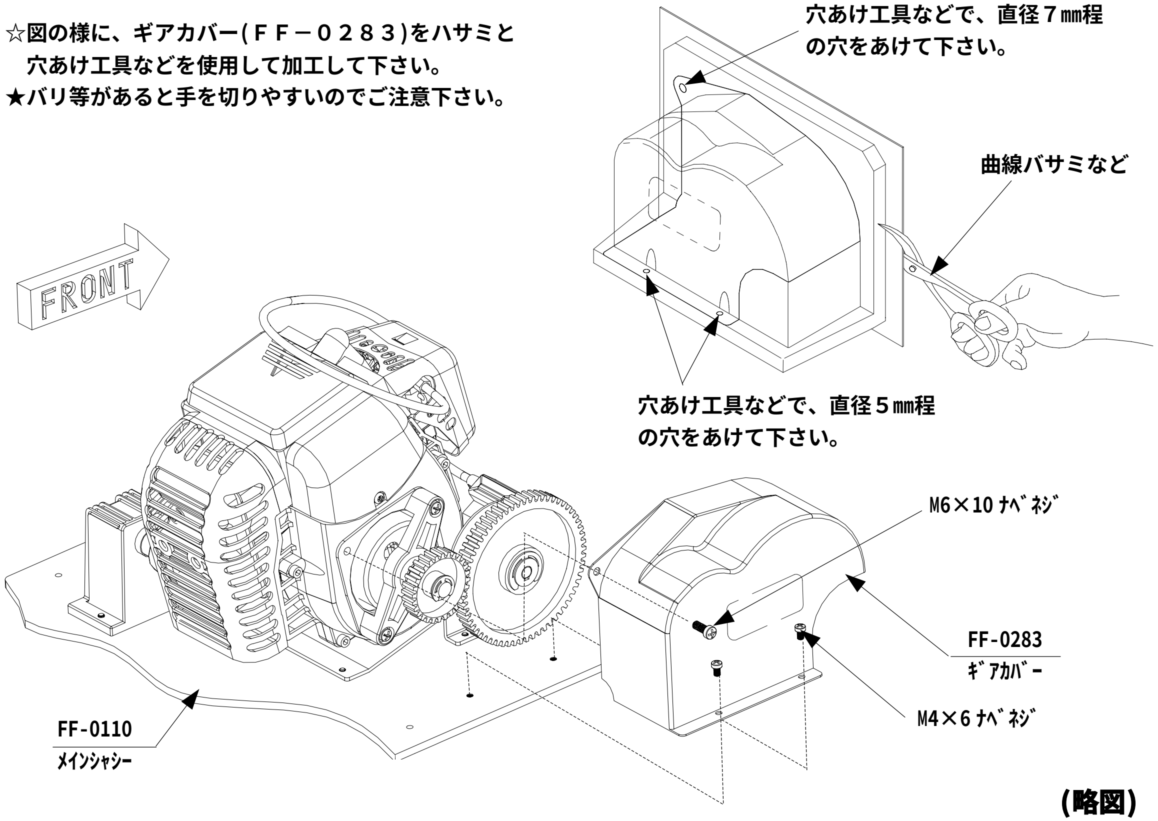
⦸アイドリング中や走行後は、エンジンおよびマフラー部は非常に高温になり危険です。エンジン停止後しばらくは手などを触れないで下さい。



(完成図)

ギアカバーの加工と取り付け

☆図の様に、ギアカバー(ＦＦ－０２８３)をハサミと
穴あけ工具などを使用して加工して下さい。
★バリ等があると手を切りやすいのでご注意下さい。



(略図)

■使用する止め具

Ｍ４×６ナベネジ　×２

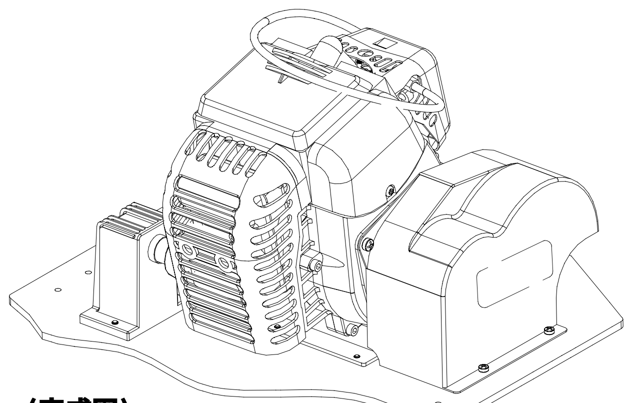
Ｍ６×１０ナベネジ　×１

■取り付けるパーツ

ギアカバー
(ＦＦ－０２８３)　×１

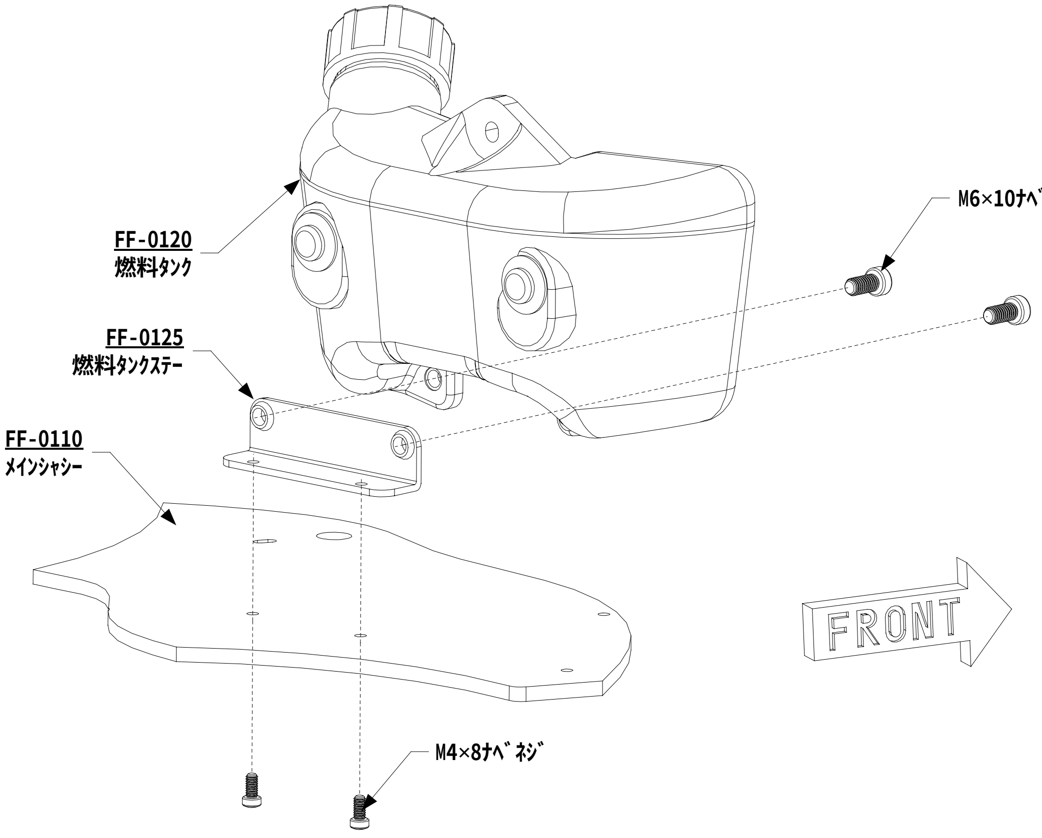
☆加工済みのギアカバー(ＦＦ－０２８３)をエンジンにＭ６×１０ナベネジで、メインシャシー
(ＦＦ－０１１０)にＭ４×６ナベネジで固定します。

⦸大きな歯車が高速で回転しますので大変危険です。
ギアカバーを外した状態では絶対にエンジンを始動しないで下さい。
また、エンジンが作動中のギアカバーの取り外しは絶対しないで下さい。



(完成図)

燃料タンク部の取り付け



（略図）

■使用する止め具

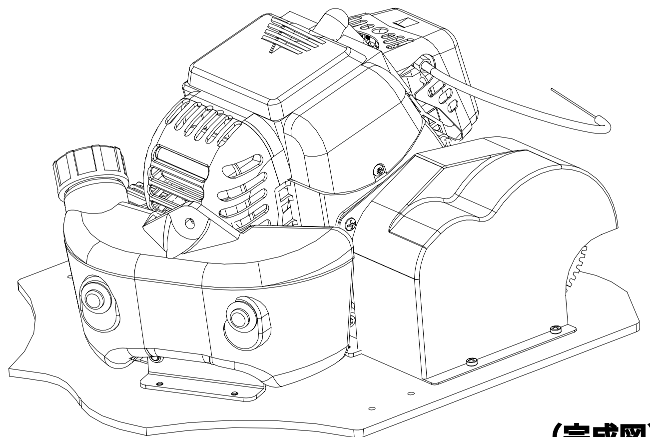
	M４×８ナベネジ	×２
	M６×１０ナベネジ	×２

■取り付けるパーツ

燃料タンク（ＦＦ－０１２０）	×１
燃料タンクステー（ＦＦ－０１２５）	×１

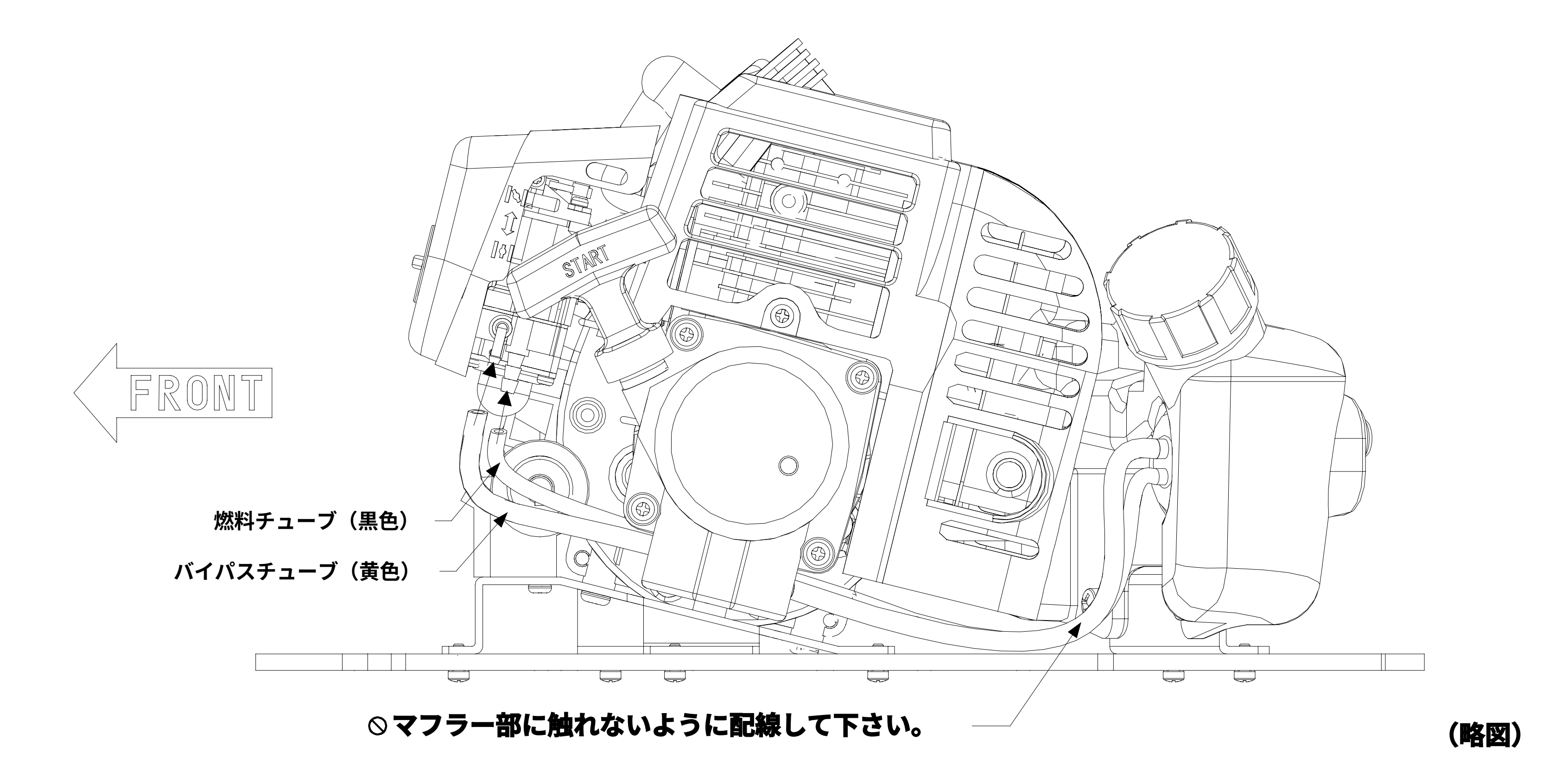
☆燃料タンク（ＦＦ－０１２０）を燃料タンクステー（ＦＦ－０１２５）にＭ６×１０ナベネジで取り付けます。
☆燃料タンクステーをメインシャシー（ＦＦ－０１１０）にＭ４×８ナベネジで取り付けます。

⃠ 燃料は揮発性、引火性が非常に高く危険です。取り扱いには十分注意して下さい。

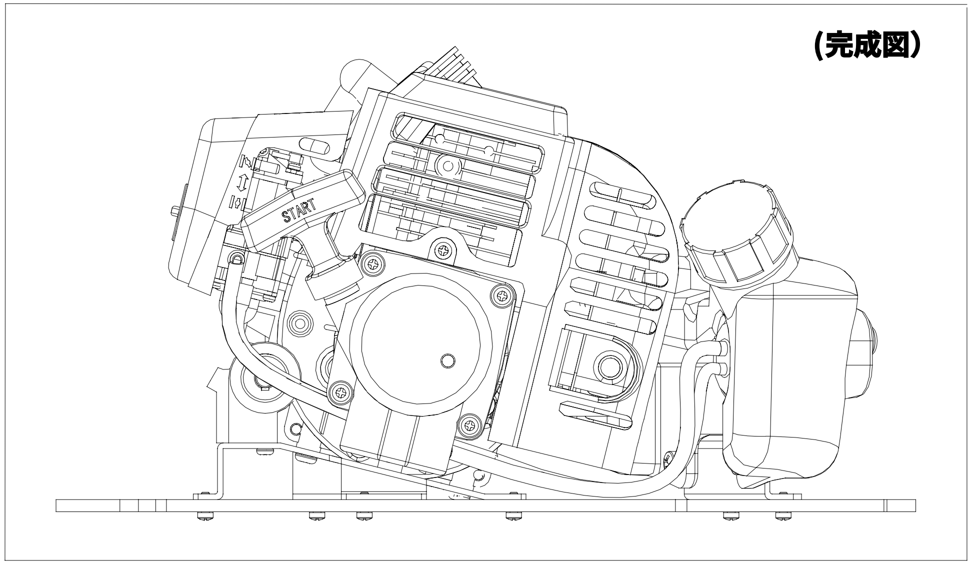


（完成図）

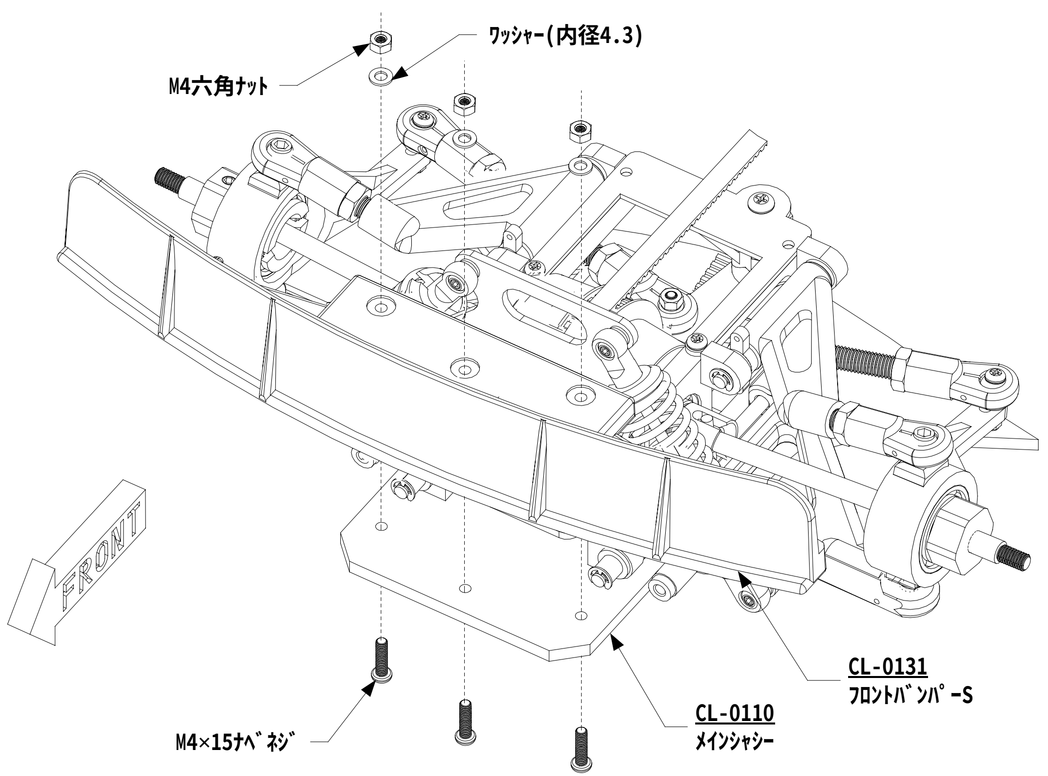
燃料循環用チューブの取り付け



☆燃料タンク付属の燃料チューブ（黒色）とバイパスチューブ（黄色）をエンジンの下の隙間を通してキャブレターに接続します。
★燃料チューブ（黒色）を大きなプラグに、バイパスチューブ（黄色）を小さなプラグに奥まで差し込みます。
⦸マフラー部は高温になります。チューブをマフラー部に触れないようにタイラップバンドなどで安全に配線して下さい。

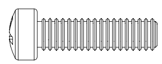


フロントバンパーの取り付け

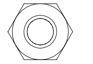


(略図)

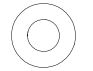
■使用する止め具



Ｍ４×１５ナベネジ　×３



Ｍ４六角ナット　×３

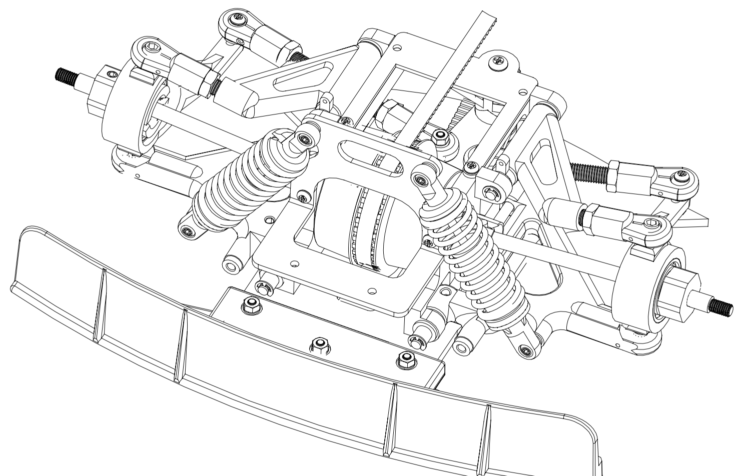


ワッシャー
(内径４．３)　×３

■取り付けるパーツ

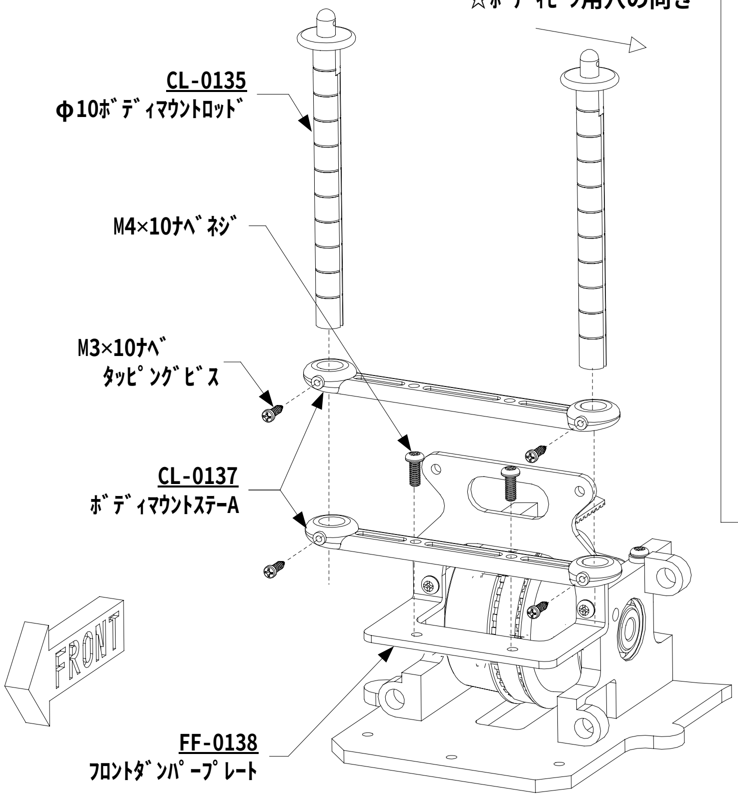
フロントバンパーＳ
（ＣＬ－０１３１）　×１

☆フロントバンパーＳ（ＣＬ－０１３１）をメインシャシー（ＦＦ－０１１０）にＭ４×１５ナベネジとワッシャー(内径４．３)、Ｍ４六角ナットで取り付けます。

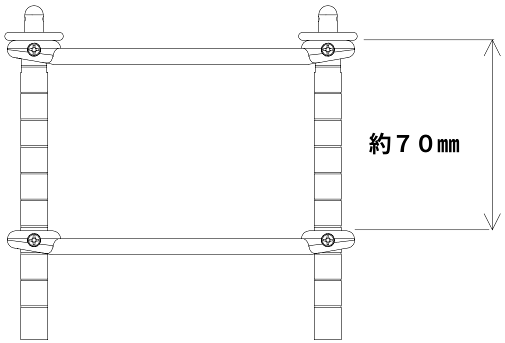


(完成図)

フロントボディマウントの取り付け



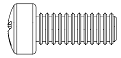
(略図)



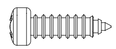
★ボディがマーチの場合は、約７０㎜です。
★マーチ以外のボディはこの限りではありません、
ボディの高さに合わせて調節して下さい。

(参考)

■使用する止め具



Ｍ４×１０ナベネジ ×２



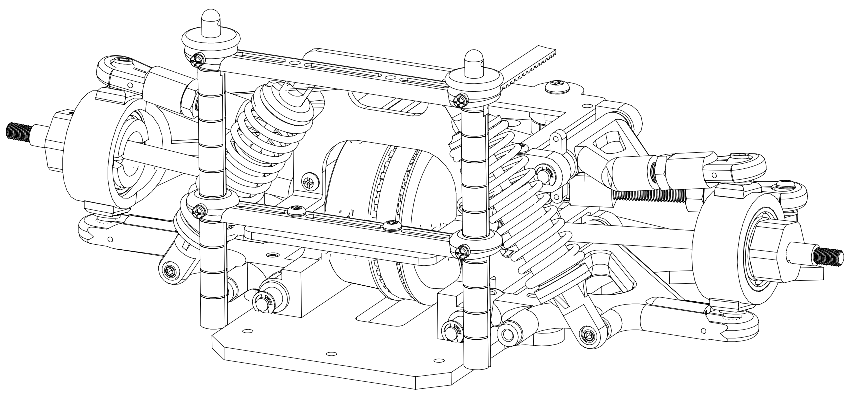
Ｍ３×１０ナベ タッピングビス ×４

■取り付けるパーツ

φ１０ボディマウントロッド（ＣＬ－０１３５） ×２

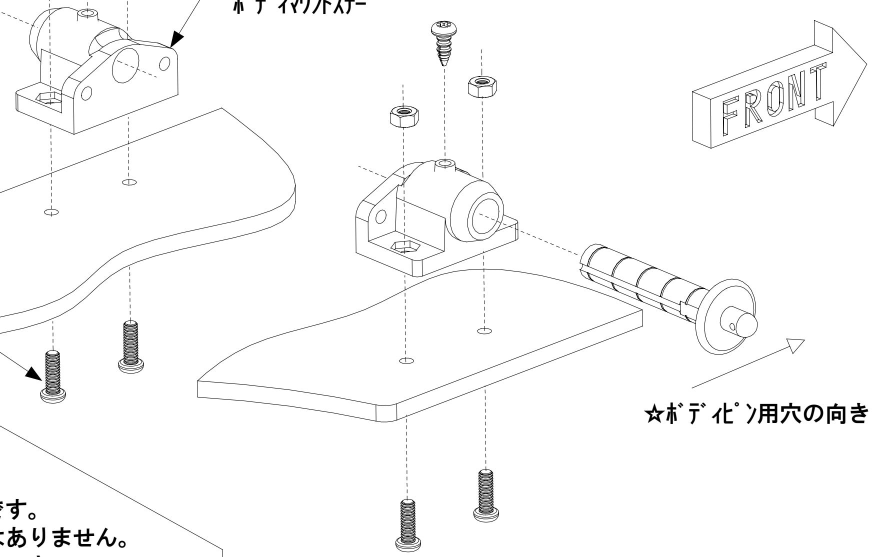
ボディマウントステーＡ（ＣＬ－０１３７） ×２

☆図のようにφ１０ボディマウントロッド(ＣＬ－０１３５)２本とボディマウントステーＡ(ＣＬ－０１３７)を２本、Ｍ３×１０ナベタッピングビスで組み立てます。この時φ１０ボディマウントロッドのボディピン用の穴の向きに注意して下さい。
☆組み立てたボディマウントをフロントダンパープレート(ＦＦ－０１３８)にＭ４×１０ナベネジで取り付けます。

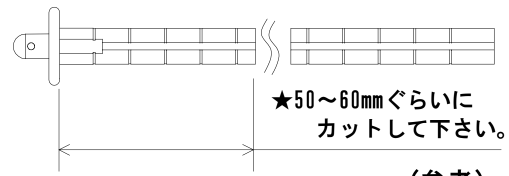


(完成図)

サイドボディマウントの取り付け

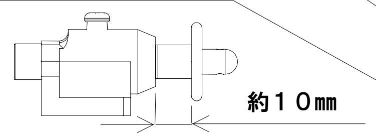


(略図)



★50～60㎜ぐらいに
カットして下さい。

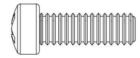
(参考)



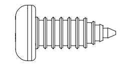
★ボディがマーチの場合は約１０㎜です。
★マーチ以外のボディはこの限りではありません。
ボディの大きさに合わせて調節して下さい。

(参考)

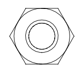
■使用する止め具



Ｍ４×１２ナベネジ ×４



Ｍ４×１０ナベ
タッピングビス ×２



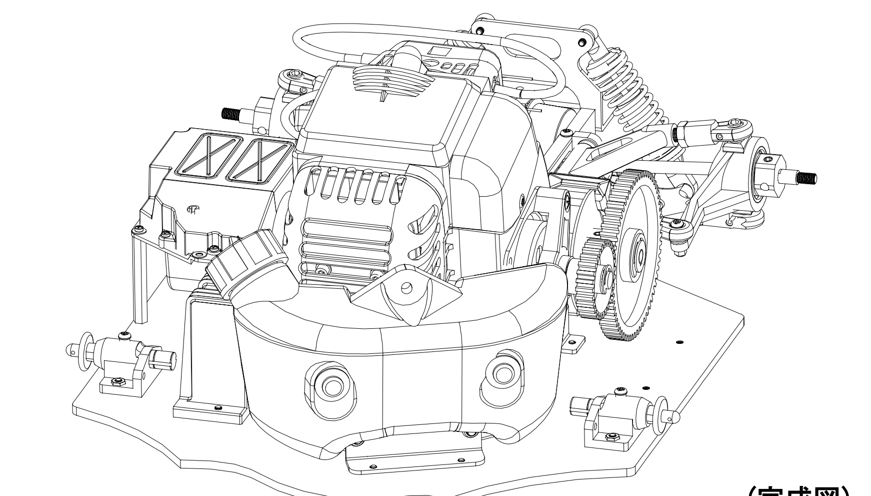
Ｍ４六角ナット ×４

■取り付けるパーツ

φ１０ボディマウントロッド
（ＣＬ－０１３５） ×２

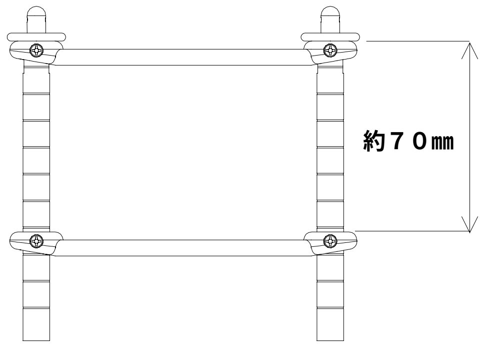
ボディマウントステー
（ＣＬ－０１３６） ×２

☆φ１０ボディマウントロッド（ＣＬ－０１３５）を２本、５０～６０
㎜程にカットして下さい。
☆ボディマウントステー（ＣＬ－０１３６）をＭ４×１２ナベネジと
Ｍ４六角ナットでメインシャシー(ＦＦ－０１１０)に取り付けます。
☆カットしたφ１０ボディマウントロッドをボディマウントステーに
Ｍ４×１０ナベタッピングビスで取り付けます。



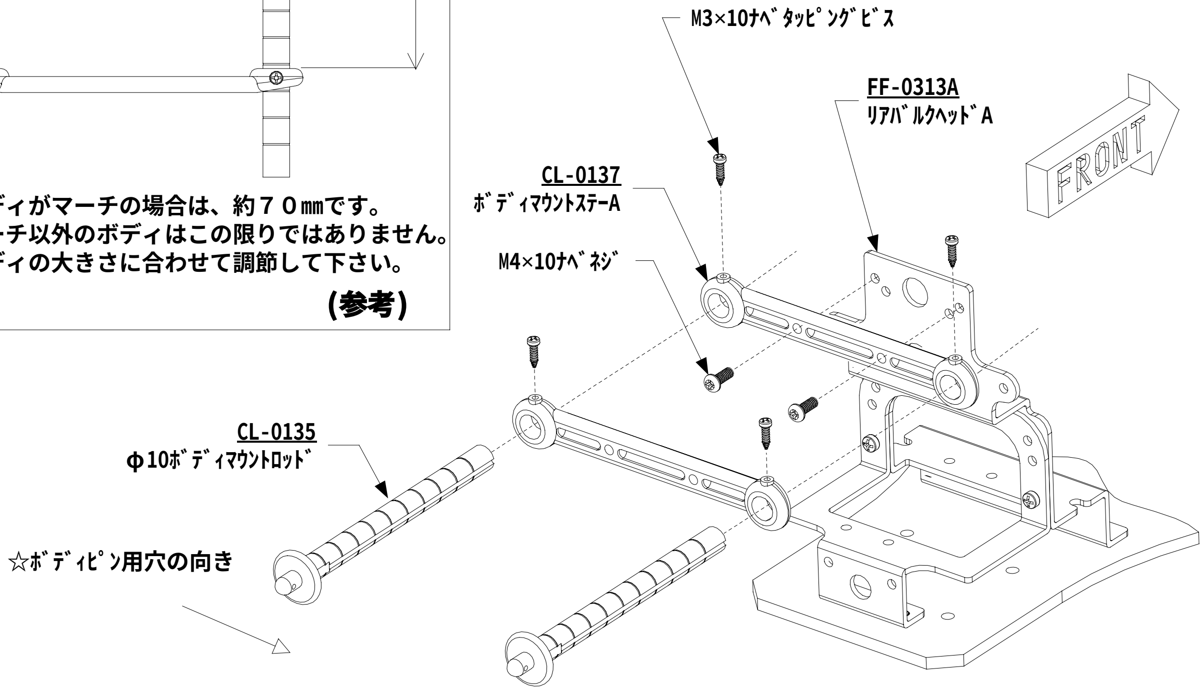
(完成図)

リアボディマウントの取り付け



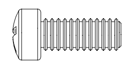
★ボディがマーチの場合は、約７０㎜です。
★マーチ以外のボディはこの限りではありません。
　ボディの大きさに合わせて調節して下さい。

(参考)

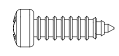


(略図)

■使用する止め具



Ｍ４×１０ナベネジ　×２



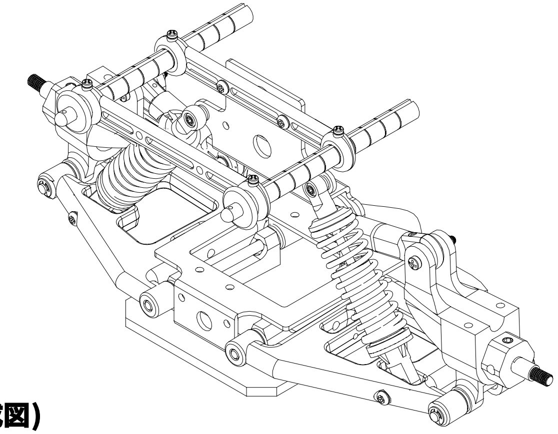
Ｍ３×１０ナベ
タッピングビス　×４

■取り付けるパーツ

ボディマウントステーＡ
（ＣＬ－０１３７）　×２

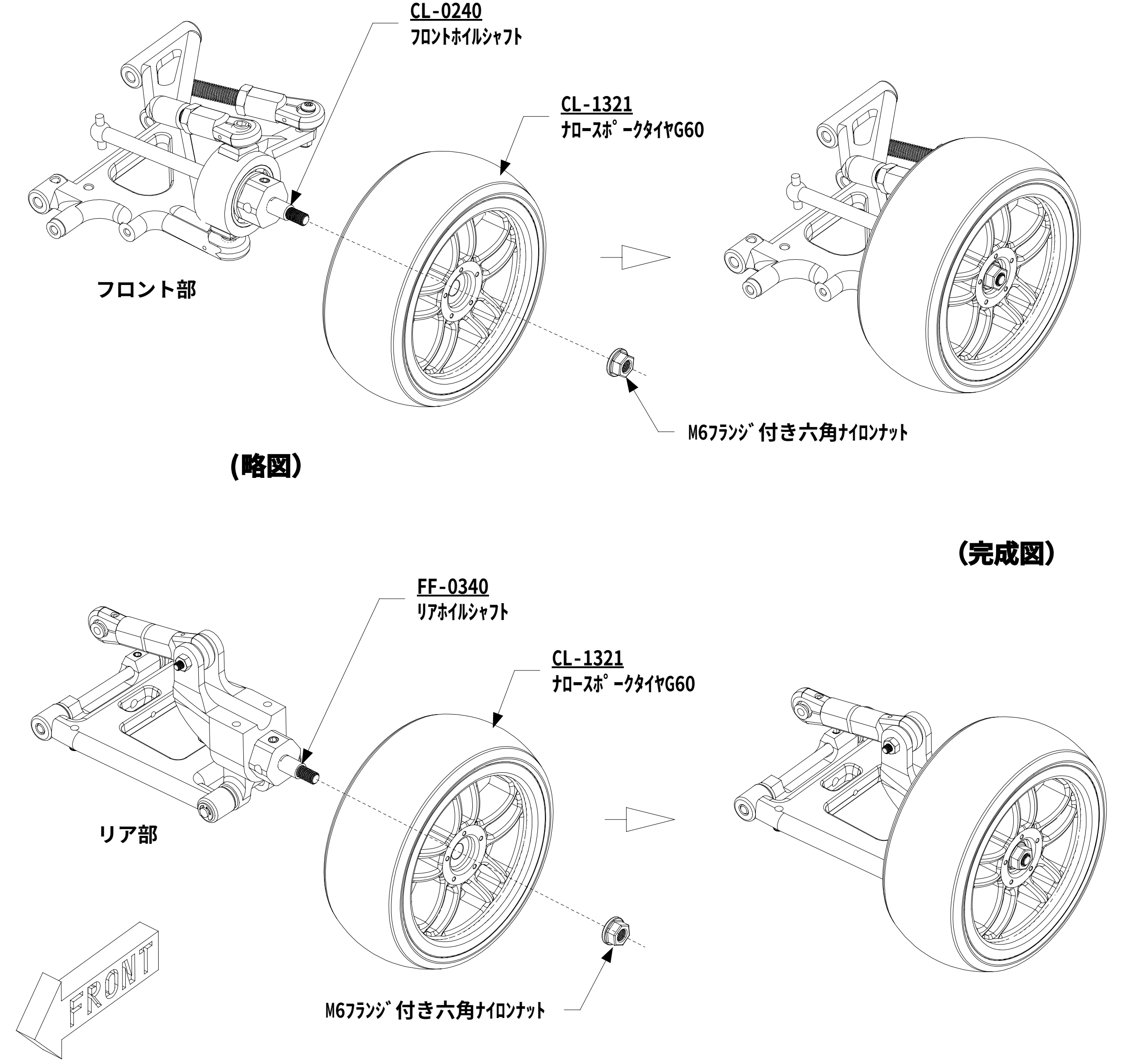
φ１０ボディマウントロッド
（ＣＬ－０１３５）　×２

☆図のように、φ１０ボディマウントロッド(ＣＬ－０１３５)を２本とボディマウントステーＡ（ＣＬ－０１３７）を２本、Ｍ３×１０ナベタッピングビスで組み立てます。この時、ボディピン用の穴の向きに注意して下さい。
☆組み立てたボディマウントをリアバルクヘッドＡ(ＦＦ－０３１３Ａ)にＭ４×１０ナベネジで取り付けます。

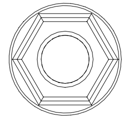


(完成図)

タイヤ／ホイールの取り付け



■使用する止め具(４本分)



Ｍ６フランジ付き
六角ナイロンナット　×４

■取り付けるパーツ

ナロースポークタイヤＧ６０
（２本で１Ｓｅｔ：ＣＬ－１３２１）　×１

製品ラインナップ

素材によりクリップ力の違う製品をご用意しております。

品番：ＲＴ１３２１ｃ
品名：ナロースポークタイヤＧ６０
説明：標準品です。（２本１セット）

品番：ＲＴ１３２０ｃ
品名：ナロースポークタイヤＧ５０
説明：標準品より少し柔らかいナロータイヤです。（２本１セット）

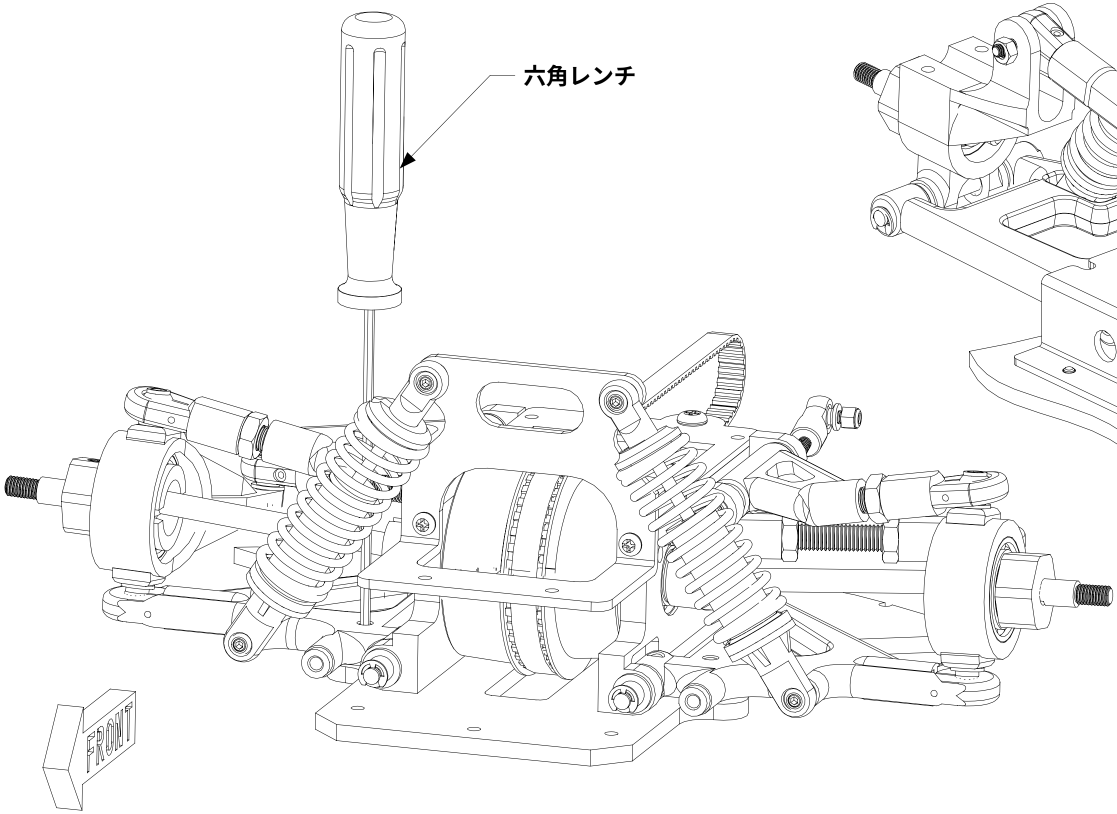
品番：ＲＴ１３２２ｃ
品名：ナロースポークタイヤＯＲ５０
説明：特殊なコンパウンドで高いグリップ力が期待できます。（２本１セット）

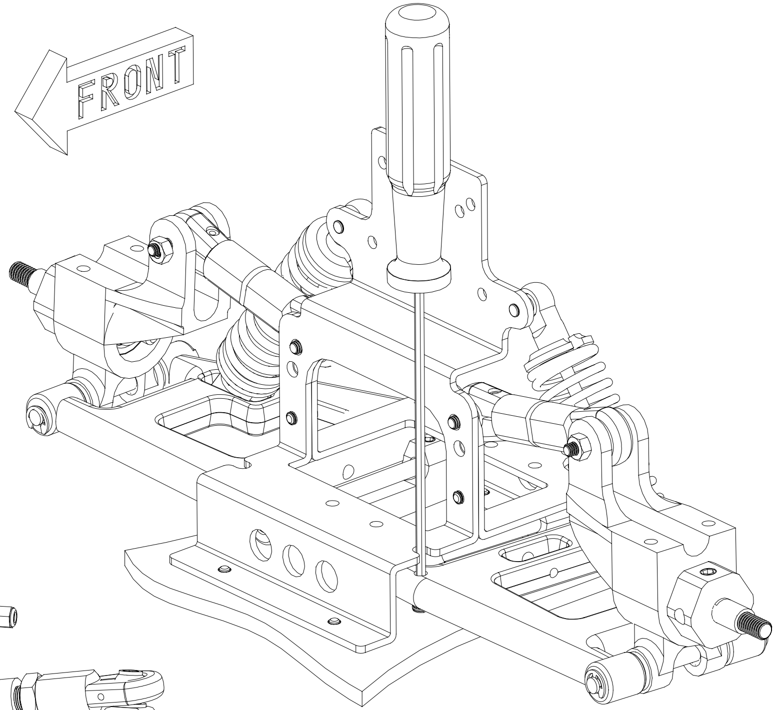
※詳しくは弊社ホームページをご覧下さい。

☆フロントホイルシャフト（ＣＬ－０２４０）とリアホイルシャフト（ＦＦ－０３４０）にナロースポークタイヤＧ６０（ＣＬ－１３２１）をＭ６フランジ付き六角ナイロンナットで取り付けます。

車高の調節

★ネジを締める…………横滑り重視
★ネジを緩める…………グリップ重視
路面の状態に合わせてお好みで設定を行って下さい。





(略図)

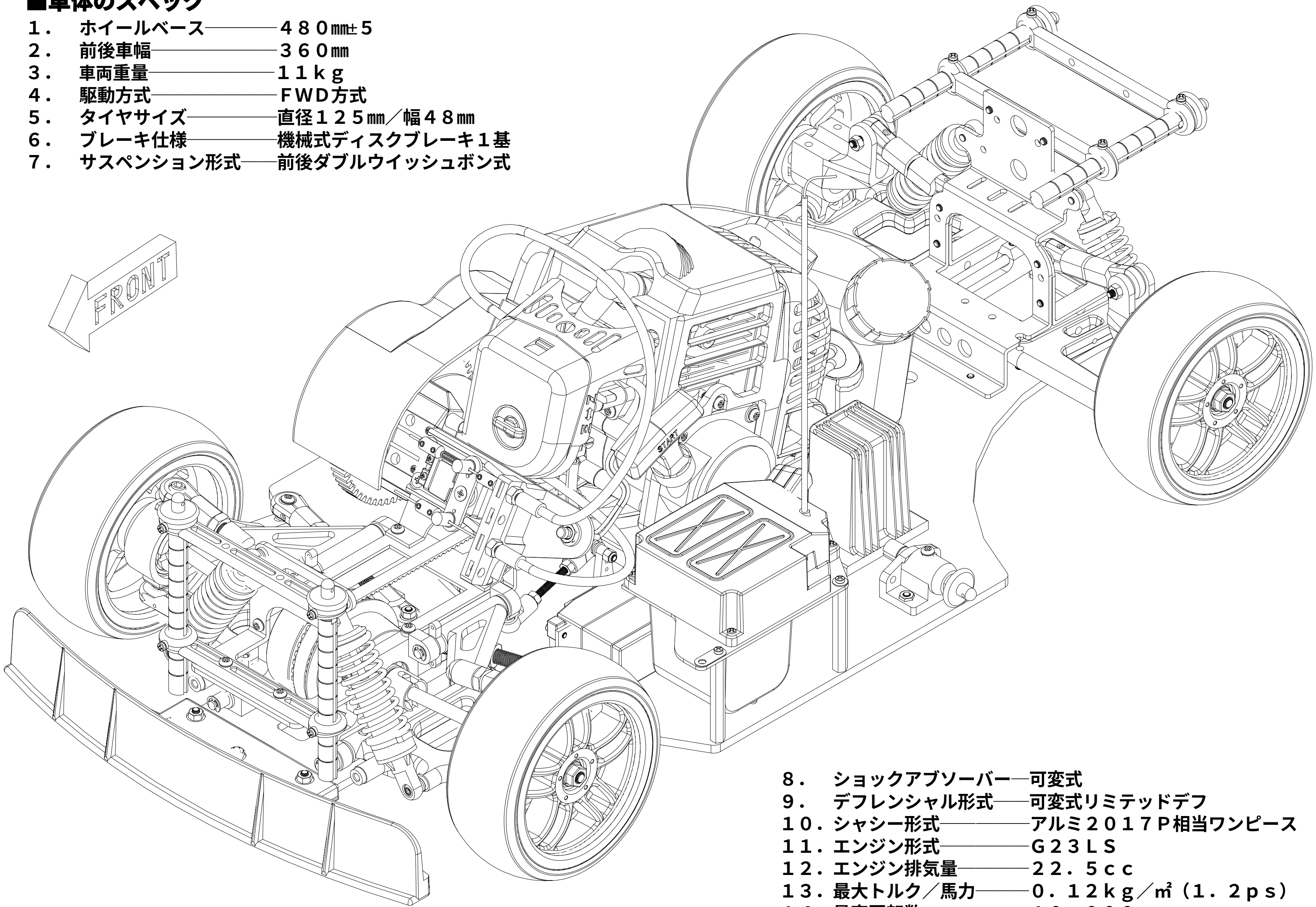
本製品には車高調節機能が付いております。出荷時のクリアランスは最大になっております。
この位置でのサーキット走行に何も問題がございませんが、路面変化による調節をしていただくとよりスムーズに走行いただけます。

★図中のネジを時計回りに締めていただきますと、横滑り味は良くなりますが、タイヤのグリップ感は低下します。
★埃などが多く滑りやすい路面では、車高を高くしていただくとグリップ感は上昇します。また、前後の車高バランスも重要なので半回転ずつ回してお好みのポイントを見つけて下さい。

本体外観図とスペック

■車体のスペック

１．　ホイールベース――――４８０㎜±５
２．　前後車幅―――――――３６０㎜
３．　車両重量―――――――１１ｋｇ
４．　駆動方式―――――――ＦＷＤ方式
５．　タイヤサイズ―――――直径１２５㎜／幅４８㎜
６．　ブレーキ仕様―――――機械式ディスクブレーキ１基
７．　サスペンション形式――前後ダブルウイッシュボン式



８．　ショックアブソーバー―可変式
９．　デフレンシャル形式――可変式リミテッドデフ
１０．シャシー形式―――――アルミ２０１７Ｐ相当ワンピース
１１．エンジン形式―――――Ｇ２３ＬＳ
１２．エンジン排気量――――２２．５ｃｃ
１３．最大トルク／馬力―――０．１２ｋｇ／㎡（１．２ｐｓ）
１４．最高回転数――――――１０，０００ｒｐｍ
１５．クラッチ形式―――――遠心式
１６．キャブレター形式―――バタフライバルブ式
１７．燃料―――――――――ガソリン２０：オイル１(混合燃料)
１８．最終減速比――――――５．７：１
１９．燃料タンク容量――――７５０ｍｌ

MEMO

エフ・プランニングサポートセンター
■　０４４－９８８－３３１１
■　f.planning@mitsuya-lab.co.jp
受付時間：土曜、日曜、祭日を除く
　　　　９：００～１２：００
　　　　１３：００～１７：００



MADE IN JAPAN

F.PLANNING CO.,LTD　2005年5月　初版